OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	福岡縣下二市ニ於ケル一般市民及生徒兒童ノ胸部「レントゲン」檢査竝ニ「ツベルクリン」皮内反應檢査成績
Author(s)	中島, 良貞; 入江, 英雄; 後藤, 基彰 他
Citation	日本医学放射線学会雑誌. 1940, 1(3), p. 235-262
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/18414
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

日本醫學放射線學會雜誌. 第1卷. 第3號. 昭和15年8月25日發行

福岡縣下二市ニ於ケル一般市民及生徒兒童ノ胸部「レントゲン」檢査竝ニ「ツベルクリン」皮內反應檢査成績

(附) 吾國結核豫防撲滅國策第一期十年計畫私案

九州帝大醫學部放射線治療學敎室

中島良貞　入江英雄
後藤基彰　吉武胖
中村徹　川波浩
入交忠雄　藤島道夫
堀三郎　赤星一郎
尾關已一郎　濱田正夫

Ergebnisse der Reihenuntersuchungen auf Lungentuberkulose unter der Bevölkerung in bestimmten Strassen der Städte Hukuoka und Yawata und unter den Schülern von bestimmten Schulen dieser Städte.

Von

Prof. Dr. Y. Nakashima, Ass.=Prof. Dr. E. Irie, Dr. M. Goto, Dr. Y. Yositake, Dr. T. Nakamura, Dr. H. Kawanami, Dr. T. Irimajiri, Dr. M. Hujisima, Dr. S. Hori, Dr. I. Akahosi, Dr. M. Ojeki und Dr. M. Hamada.

(Aus dem Institut für Strahlentherapie an der med. Fakultät der Kaiserl. Kyusyu=Univ. zu Hukuoka, Japan.)

目　次

I　緒　言
II　研究事項
III　檢査法
(A)「レ」胸部集團檢査
(B)「ツベルクリン」皮內反應檢査
IV　「レ」竝ニ「ツ」反應檢査結果
(A)市民ニ於ケル檢査結果
(B)生徒兒童ニ於ケル檢査結果
(C)檢査結果ノ綜合的觀察
(1)「レ」所見ト「ツ」反應トノ喰違
(2)年齡ニヨル「ツ」反應陽性發現傾向ノ差異
(3)「ツ」反應陽性發現傾向ノ家族的偏倚
(4)「レ」所見分布ノ家族的關係
V　B′.C 級患者ノ治療期間
VI　B′.C 級患者ノ治療費負擔能力調査
VII　總　括
(附)吾國結核豫防撲滅國策第1期10年計畫私案

I 緒 言

余等ハ昨昭和14年文部省ヨリ結核ノ豫防治療ニ關スル研究ニ對シ，科學研究費ノ交附ヲ受ケテ本研究ニ著手シタ。

結核豫防撲滅策ヲ講ズルニ當ツテハ種々ノ方策ガアラウ．併シ何レノ方策ヲ實施スルニシロ必要ナルモノハ經費デアル．從ツテ豫防撲滅策ヲ講ズルニ當ツテハ吾國ノ現狀ヨリ見テ，支出シ得ル範圍ノ經費ヲ以テ遂行シ得テ．最モ有效ナルモノガ最良策デアルコトハ言ヲ俟タナイ。

余等ノ1人中島ハ國策トシテ吾國結核ノ豫防撲滅ヲ講ズルニ當ツテハ第一義諦ノ方策トシテ次ノ如キ順序ヲ以テ施行スベキガ最モ有效ナルベシトノ私案ヲ有シ．過去數年ニ亙ツテ專門雜誌．新聞．乃至ハ講演(「パンフレット」)ニヨツテ發表シテキル．卽チ．其ノ要點ヲ述ブレバ次ノ如クデアル。

1．患者ノ摘發＝先ヅ「レ」線集團檢査ヲ以テ肺結核患者ヲ摘發ス。

2．摘發シタル患者ノ處理＝理想トシテハ勿論之等ヲ悉ク隔離收容シテ治療スベキデアルガ．經濟的ニモ社會的ニモ現在ニ於テハ不可能ナルヲ以テ．之等摘發シタル患者ニハ醫師ヲシテ懇切ニ結核豫防上ノ知識ヲ與ヘシムルコトニス。之等摘發セラレタル患者ノ中ニハ自ラ肺結核ニ罹レルコトヲ知ラザリシガ爲ニ結核菌ヲ到ル處ニ撒キ散ラシツヽアツタモノモアルベキダガ．醫師ニヨツテ其ノ危險ナルコトヲ敎ヘラレ豫防上ノ注意ヲ與ヘラルレバ．相當ノ敎養アルモノハ己ガ傳染源デアルコトヲ知ラナカツタ時ニ比スレバ．傳播ノ機會特ニ家族傳染ヲ非常ニ稀薄ナラシメルモノト思フ．併シ中ニハ頑迷無智ナルガ爲ニ．或ハ家庭內ノ生活事情ノ爲ニ．醫師ヨリノ話ダケニテハ到底傳染防止(特ニ家族傳染)出來ナイト思ハルヽモノガアルベキデアル．斯ル者ノミハ國權ヲ以テ隔離スル必要ガアル。

又摘發シタル患者中ニハ直ニ充分ナル治療ヲ開始スル必要アル者ガアツテ．ソノ中ニハ治療費ノ負擔ニ堪ヘ得ル者ト堪ヘナイモノトアルベキデアル．治療費ノ負擔ニ堪ヘナイモノニハソノ費用ノ一部又ハ全部ヲ國家ガ負擔スベキデアル．又發見シタル患者ノ中ニハ單ニ自宅ニテ安靜ヲ守ラシメルコトニヨリ．或ハ職業ハ續ケナガラ日常衞生ニ注意シタル生活ヲナスコトニヨリ．自然治癒ヲナス者モアラウ．或ハ職業上ノ勞務ヲ輕減セシメテ注意シタル生活ヲナスコトニヨリ仕事ヲ續ケシメ得ルモノモアラウ．斯ル者ハ練達ナ醫師ノ判定ニヨツテ適當ナル處置ヲナシ．時々「レ」線檢査ヲナシテ監視シ．病勢進展．治療ノ必要アルニ至レバ直チニ醫療ヲ施スコトニスル．同ジク醫療ニヨツテ全治シタル者モソノ後或ル期間ハ勞務ヲ輕減シ醫師ノ監視ノ下ニ置ク樣ニスル。(以上ハ中島ノ懷ク結核豫防撲滅策私案ノ骨子デアルガ詳細ハ他ノ雜誌講演錄等參照セラレタシ．但シ希望者ニハ或部數ヲ限リ「パンフレット」ヲ進呈スル用意アリ)

余等ノ本研究ハ以上ノコトヲ國策トシテ實施スル場合ヲ假想シテ經濟的ニ大約幾何程度ノ國費ヲ必要トスルカヲ算出スル基本事實ヲ調査シ．更ニ右國策私案ヲ國情ニ卽應セシメテ實施シタル場合ノ效果ノ程度ヲ察知セムトスルニアル。

II　研究事項

1．福岡市竝ニ八幡市ニ於ケル商店街ノ一區域竝ニ勞働者街ト目セラルヽ一區域ヲ選定シ，ソノ地域內ノ住民全部ニ就キ「レ」線寫眞撮影法ニヨル檢査ニヨツテ肺結核患者ノ實數，分布狀態竝ニ疾病ノ程度ヲ知ルコト。

以上ニヨリ發見シタル患者ノ家庭ニ就イテソノ生活狀態經濟狀態ヲ調査スルコト。

2．福岡市內ニ於ケル一定ノ小學兒童，中學生徒，高等學校生徒ヲ同樣ノ方法ニヨリ檢査シテ患者ノ實數，分布狀態竝ニ疾病ノ程度ヲ知ルコト。

3．以上ノ檢査人員ニ就イテ同時ニ「ツベルクリン」皮內反應ヲ檢査シ，「ツベルクリン」皮內反應ノ診斷的價値ヲ決定スルコト。

III　檢査法

(A)「レ」胸部集團檢査

「レ」胸部集團檢査ヲ行フニ現今三通リノ方法ガ考ヘラレル，卽チ透視法，間接撮影法，直接撮影法デアル。經費ノ點ヨリ云ヘバ透視法，間接撮影法，直接撮影法ノ順ニ有利デアルガ，ソノ診斷能ヨリ云ヘバ逆ノ順序ニ有利デアル。殊ニ透視法ハ診斷能ニオイテ甚ダ薄弱ナルノミナラズ，後日ノ證據トナルベキ寫眞ナキコトニ於テ他ノ法ニ比較サレヌ程大ナル缺點ヲ有シテヰル。東北帝大古賀博士ノ提唱ニカヽル間接撮影法ハ經費ガ直接法ノソレニ比シ頗ル低廉ナル點ニ於テ又ソノ操作ノ簡單ナル點ニ於テ遙ニ直接撮影法ヲ凌駕シテヰル。且又要監視者以上ノ肺結核患者ヲ摘發スル點ニ於テモ今日余等ノ有スル手技，眼識ヲ以テ比較スレバ直接撮影法ニヨル摘發能ノ約9割ニ相當スル能力ガアル。從ツテ結核患者摘發ト云フコトノミヲ目的トスル場合ニハ被檢團ノ生活條件，ソノ他ヲ考慮シテ間接撮影法ヲ採用スルガ有利ナル場合多々アルト思フ。併シ現在ノ間接撮影法ヲ以テシテハ病竈ノ質的診斷ヲ明確ニ察知スルコトハ多クノ場合不可能デアル。余等ノ本研究ノ目的ハ緒言ニ於テ述ベタルガ如キ結核豫防撲滅國策私案ヲ實施ニ移ス場合ヲ假想シテ，ソレニ要スル經費ノ大約ヲ算出スル上ニ必要ナル事實ヲ限ラレタル少數ノ人員ニ就イテ檢査シテ吾國全體ニ類推シテ察知セムトスルノデアルカラ，間接撮影法ハ此場合ニ限リ直接撮影法ニ劣ツテヰル。カヽル理由ヨリシテ余等ハ直接撮影法殊ニ四切「フイルム」ヲ使用スル法ヲ採用シタ。

余等ノ過去10年ニ亙ル肺結核患者ノ「レ」線放射療法ノ經驗ヨリシテ余等ハ患者ノ年齡ト1枚ノ肺「フイルム」寫眞ヲ觀察スルコトニヨリテ，ソコニ見ラルヽ結核性病變ノ大凡ソノ豫後ヲ判定シ得ルノミナラズ，「レ」線放射療法ヲ行ヘバ大約幾何ノ期間ヲ要シテ臨牀上全治退院セシメ得ルカヲ判定シ得ルモノト信ジテヰル(但シ合併症ナキ場合)。コノコトニ就イテハ疑問ヲ抱ク人多キヤニ思ハルヽガ余等ハ現在入院セシムルニ當リテハ總テ全治退院マデノ大約ノ期間(7，8ケ月或ハ1年位等)ヲ患者ニ告示シテ其間ニ中途退院等ヲナサヾルコトヲ約セシメテ治療ヲ開始スルコトニシテヰルガ，例外的少數ヲ除キテハ殆ンド皆前約ノ期間內ニ全治退院セシムルコトヲ得テヰル。若シ疑ハルヽ人アラバ1日ノ閑ヲ利シテ余等ノ教室ヲ參觀シテソノ實際ニ

就イテ調査セラルヽナラバ恐ラクコノ疑問ハ立所ニ解消スルモノト信ズル。斯ルガ故ニ余等ハ本檢査ニテ發見シタル患者中治療ヲ要スル者ニ就イテハ余等ガ「レ」線治療ヲ施スモノト假定シテノ大凡ノ治療期間ヲ決定シテ置クコトニシタ。

「ツ」皮內反應ノ診斷的價値ヲ胸部「レ」寫眞ニ對照シテ判定スルニハ胸部「レ」寫眞ノ診斷能ハ出來ル丈ケ大ナルコトヲ必要トスル本研究ニ間接撮影法ヲ採用シナカツタ理由ノ一ハ又玆ニ存シタノデアル。

檢査ニ使用シタ發生裝置ハ福岡市ニ於テハザニタス會社製「ツリファス」號，八幡市ニ於テハ島津製作所製報國號デアル．「レ」管ハ日本醫療製10「キロワット」「シーレックス」管ヲ用ヒタ。又就床中ニシテ移動出來ナイ者ニ就イテハ肥田製携帶用「レントゲン」裝置ヲ以テ患家ニ於テ撮影シタ。

寫眞ノ判定＝余等ガ寫眞ノ判讀ニヨツテ知ラムト欲シタコトノ第一ハ嘗テ一度肺結核ニ罹リシコトアリヤ否ヤト云フコト．第2ニハ現在肺結核症ニ罹患セル陰影アリヤ否ヤ且又ソレヲ認ムル場合ニハ卽時治療ヲ開始スベキモノカ或ハ醫師ノ監視ノ下ニアリテ或程度ノ職務ニ服セシメ得ルモノナリヤ否ヤト言フコトデアル。而シテ此等ノコトヲ「レ」寫眞ニヨリ絕對的確實サヲ以テ判定スルコトハ現在ニ於テハ不可能ノコトデアル。而シテ余等ハ過去10年ノ臨牀經驗特ニ肺結核患者ノ「レ」治療ヲナシ．治療前ノ寫眞ト治療ニヨリ病竈ガ瘢痕化乃至ハ殆ンド消失シタル後ノ寫眞トヲ比較スルコトニ多クノ經驗ヲ有スルヲ以テ曾テ一度肺野ニ結核性病竈アリシモノヽ痕跡特ニ肥大セル肺門部陰影ノ縮小シテ殆ンド正常化シタルモノニ就イテ或程度ノ確カサヲ以テ之レヲ認定シ得ルモノト信ジテヰル。勿論コレハ程度問題デアツテ絕對的ノモノデナイコトハ言ヲ俟タナイ。但シ明ラカニ石灰化竈特ニ初期變化群ノ石灰化竈トナレルモノト思ハルヽ肺野ト肺門部トニ對立セル石灰化竈ヲ見ル場合竝ニ明カニ肋膜炎ノ痕跡ヲ認ムルモノハ先ヅ間違ヒナク(例外ハアルトシテモ)一度ハ結核ニ罹リタルモノトシテ別ニ之レヲ記載スルコトニシタ。

結核性變化ノ所見アル場合ニ醫師ノ監視ノ下ニ或ル程度ノ職業ヲ續ケシメ得ルカ乃至ハ卽刻治療ヲ開始スル必要アルカノ判定モ甚ダシク科學的根據ニ乏シイノデアルガ唯余等ノ多年ノ臨牀的經驗ヨリ之ヲ判定シタニ過ギナイ。但シ他ニ．ヨリ確實ナル方法ヲ知ラナイカラデアル(1回ノ血沈反應檢査ノ如キハ「レ」線寫眞診斷能ノ缺陷ヲ補フニハ殆ンド役立タナイモノト信ジテヰル)。

結局余等ハ次ノ如ク寫眞ノ判定ヲナシタ。

A'?＝余等ノ判讀ニヨリテハ曾テ結核ニ罹リタル確證ヲ見出サヾルモノ(勿論コノ中ニハ一度肺結核ニ罹リ「レ」線寫眞上ニテハ之レヲ確認シ得ザルモノヲ含ンデヰル)

A'＝余等ノ判讀ニヨリ曾テ結核ニ罹リタル痕跡アリト認定シタルモノ(コノ中ニハ石灰化竈又ハ肋膜肥厚ヲ認ムルモノモアレドモ．或ハ結核ニアラザル病變ノ痕跡或ハ他ノ原因ニヨリ結核病變ノ痕跡ト見誤リタルモノモ少數ニハ混ジテヰルダラウト疑ヘバ疑ハレル餘地アルモノモ含マレテヰル)

A″＝A′ト大同小異デアルガ唯肺紋理ノ增强乃至ハ肺門部陰影ノ亂レ乃至ハ增强等ガA′ニ比シテ一層强ク現ハレ且ツ年齡ヲ參酌シテ再燃ノ恐レA′ニ比シ大ナルモノト思ハレルモノ(コノ群モ悉ク一度結核ニ罹リタルモノト絕對的ニハ保證出來ナイケレドモ余等ハ先ヅソノ誤リハナイモノト信ジテヰル)

B＝明カニ肺野ニ結核性ノ病竈陰影ヲ認ムルモノデ．醫師ノ監督ノ下ニ置イテ現在ノ職業ヲソノマヽ或ハ輕減シテ續ケシメ得ルモノト判定シタルモノ(要監視者)

B′＝Bヨリ變化稍ヾ大ナルモノデ事情之レヲ許セバ治療開始シタキモノ(要監視者)

C＝卽刻治療ノ必要アリト思ハルヽ程度ノ變化アルモノ(要治療者)

B′竝ニC群ニハ治療スルト假定シタ場合ノ治療期間ノ推定ヲ下シテ置イタ。

(B)「ツベルクリン」皮內反應集團檢查

施行ノ方法及判定基準ニ關シテハ．統一シタ規格ヲ缺ク現狀デアルカラ．集團檢查ノ場合ニ一般ニ行ハレ．且ツ適當ト思ハレル所ヲ參照シ．本學細菌學教室．戶田教授ノ意見ヲキイテ次ノ如ク定メタ。

「ツベルクリン」液＝0.5％石炭酸加生理食鹽水ニヨリテ稀釋セル舊「ツベルクリン」2000倍液。傳研製原液ヲ用ヒ．稀釋液調製ハ細菌學教室ニ依賴シタ。

注射量＝0.1立方糎

注射部位＝右上膊外側

判定時期＝48時間後

判定標準＝硬結ヲ參考トシテ主トシテ發赤ノ大イサニヨリ次ノ如ク定メタ。

發赤ガ正圓形ヲナサヾル場合ハ長徑ヲ採ル事トシタ。

發赤ノ大イサ	符號	判定
0— 4(mm)	−	陰性
5— 9 ,,	±	擬陽性
10—14 ,,	+	陽性
15—19 ,,	++	
20以上 ,,	+++	

但シ水泡形成等アルモノハ數値ノ如何ニヨラズ(+++)トスル。

尙對照トシテ．「グリセリンブイヨン」ヲ0.5％石炭酸加生理食鹽水ヲ以テ2000倍ニ稀釋セルモノヲ．同量ダケ近接部位ニ注射シタ。

若シ對照發赤ガ陽性大デアル場合ニハ．「ツ」反應ト對照トノ大イサノ數値ノ差ヲ以テ判定スル事トシタ。但シ發赤ノ大イサガ兩者同一デアツテモ．水泡形成．壞死ノ徵候等アルモノハ之ヲ(+++)ト判定シテヰル。

2000倍稀釋液ニヨツテ陰性ナル場合．更ニ濃度ヲ高メテ「ツ」反應ヲ追及スル事ハ行ハナカツタ。集團檢查ニ於テ斯ル事ヲ行フノハ相當困難ナルノミナラズ．其ノ誤差ハ僅少ナルモノト思ハレル。他ノ集團檢查成績ノ發表セラレタノヲ見ルニ概ネ余等ト同ジク濃度ヲ高メテ追及シテ居ルモノハ無イ樣デアル。

第1表　「ツ」皮內反應對照發赤出現度

−	±	+	++	+++	計
3048 (95.7)	75 (2.4)	41 (1.3)	14 (0.4)	7 (0.2)	3185
		62 (1.9)			

(括弧內數字ハ％ヲ示ス)

因ニ余等ノ檢查ニ於テ對照ガ陽性値ヲ示シタモノハ．1.9％デ其ノ分布ハ左ニ示ス(第1表)。

「ツ」反應ガ陰性乃至擬陽性値ヲ示ス場合ニ對照發赤ガ陽性値ヲ示シタモノハナイ。

對照發赤が「ツ」注射ニヨル發赤ヨリ大ナル値ヲ示ス事ハ殆ドナク．若シアツテモ其ノ差ハ1—2粍位ノモノデアル。

IV　「レ」檢査竝ニ「ツ」反應檢査結果

(A) 市民ニ於ケル檢査結果

余等ノ研究ニ際シテハ福岡縣衛生課ノ絕大ナル支援ニヨリ，更ニ，福岡，八幡兩市ノ衛生當局，警察關係者及ビ市民有志ノ熱心ナル協力ヲ得，一般市民ノ理解ト相俟ツテ，此ノ種ノ研究ニ最モ支障ヲ感ズル檢査豫定者ノ不參ヲ最小限度ニナシ得タト信ズルモノデアル。

此ノ關係ヲ表示スレバ次ノ如クデアル。(第2表及第3表)

第 2 表　受檢率及診斷率

	「レントゲン」		「ツ」皮內反應	
	人數	%	人數	%
檢査豫定數	2001		2001	
受檢者數	1985	99.2	1985	99.2
診斷數	1907	95.3	1972	98.6

第 3 表　區域別受檢率及診斷率

		八幡市				福岡市			
		「レントゲン」檢査		「ツ」皮內反應檢査		「レントゲン」檢査		「ツ」皮內反應檢査	
		勞務者街	商店街	勞務者街	商店街	勞務者街	商店街	勞務者街	商店街
檢査豫定數	員數	522	641	522	641	403	435	403	435
	戶數	100	103	100	103	102	102	102	102
受檢者數	實數	522	635	522	635	398	430	398	430
	%	100.0	99.1	100.0	99.1	98.8	98.9	98.8	98.9
診斷數	實數	496	603	520	627	392	416	398	427
	%	95.0	94.1	99.6	97.8	97.3	95.6	98.8	98.2

第2表ハ二市ヲ綜合シタ概觀デアリ，第3表ハ其ヲ區域別ニ統計シタモノデアル。表中檢査豫定數トハ檢査施行前ニ當局ニ依賴シテ作製シタ名簿ニ記載セル檢査豫定ノ人員デアルガ，名簿作製後檢査時マデニ相當ノ期間ヲ經過セルタメ轉居等ヲナシタモノガアリ，之等ハ豫定人員ニ算入セザル事トシタ。

受檢者數トハ，實際ニ余等ガ「レ」撮影，「ツ」注射，其他，問診，視診等ヲ施行セル數デアルガ，之ニヨツテ見レバ檢査豫定者ノ殆ド全部ガ受檢セル事ヲ知リ得ル。

診斷數トハ實際ニハ「レ」撮影，「ツ」注射ヲ施行シ乍ラ手違ヒノタメ「レ」寫眞或ハ「ツ」反應所見ノ判定ヲ下スヲ得ナカツタ員數ヲ受檢者數ヨリ除外シタ數デアリ除外者ノ數ガ相當ニアツタ事ハ遺憾デアル。之ハ檢者タル余等ノ責任ニ歸スル所デアルガ其ノ中，「レ」檢査所見ノ判定不能ナル場合ノ大部ハ乳幼兒ニシテ余等ノ現在ノ知識ヲ以テハ其ノ像ヲ如何ニ分類スベキヤ否ヤノ判定不能ナルモノデアリ，一部ハ被檢者身體ノ動搖等ニヨル像ノ不良ヲ頻回ノ撮影ニヨルモ

防止スルヲ得ズ．且ツ少クトモ活動性病變ノナキ事ヲ窺ヒ得テ．撮影ヲ中止セルモノデアル。從ツテ兩者共．假令余等ノ判定分類ニ入レ得ナカツタトハ言ヘ．其ノ中ニハ．既述セル余等ノ所謂C群乃至B群ニ屬スルモノハ含マレテ居ナイ積リデアル。

「ツ」反應判定不能ナルモノハ、注射後急用其ノ他ノ事情ニヨリ判定ノ時期ヲ失セルモノデ．此ノ數ハ．「レ」診斷不能者ニ比シテ甚ダ少イ事ハ當然デアル。

以上ノ事情ニヨリ．「レ」診斷數ト「ツ」反應判定數トニ差異ヲ生ジタ。卽チ同一人ニシテ．「レ」診斷或ハ「ツ」反應判定ノ何レカヲ缺ク者ガ生ズル事ニナツタガ．之等モ．「レ」所見．「ツ」反應所見ノ兩者ヲ比較照合スル場合以外ハ．何レカノ統計ニ編入セル事ハ．後揭ノ通リデアル。

更ニ嚴密ヲ期スルタメニハ．此ノ判定除外者ヲモ．更ニ改メテ檢査スベキデアルガ．今回ハ研究期間其他ノ都合ニヨリ之ヲ行ハナカツタ。

尙．檢査ハ隣接セル大約100戶宛ヲ一區域トシテ選ンダノデアルガ．八幡市ニ於テハ比較的永續的ノ同居者(主トシテ女中)ヲモ編入シタガ．福岡市ニ於テハ之ヲ除外シテ居ル。從ツテ同一戶數且ツ同一家族員數デアツテモ受檢者ハ八幡市ガ多人數トナル關係ニナツタガ．然シ使用人等ノ同居者ハ1戶1人ヲ超ユル所ハ殆ドナク．大體ニ於テ家族數ノ多少ヲモ第2表ニヨツテ比較シ得ル。

第4表 及第5表ニ於テ．福岡．八幡兩市ニ於ケル「レ」檢査及「ツ」反應檢査結果ヲ纏メテ居ル。

第4表「レ」所見符號Bニハ括弧內ニ示セル如ク便宜上BトB′ノ兩者ヲ合計シタ數ヲ揭ゲタ。後揭ノ表ニモ同樣ニBトB′トノ兩者ヲ含メテBナル符號ヲ用ヒテ居ル。第3表最後ノ欄ニハ(B＋C)トシテ著明ナル病變ヲ有スルB群トC群トヲ纏メタ。此ノ表ニヨツテ大約7％ノ多數ニ要注意者以上ノ結核患者ノ存在セルヲ知ル。シカモ．之等ハ此處ニ數示シテハ居ナイケレド

第4表　福岡．八幡兩市民「レントゲン」所見分布

地域		被檢者數	A??	A′	A″	B (B＋B′)	C	B＋C
福岡市	實數	808	116	562	80	38	12	50
	%		14.4	69.6	9.9	4.7	1.5	6.2
商店街	實數	416	67	291	38	14	6	20
	%		16.1	70.0	9.1	3.4	1.4	4.8
勞働者街	實數	392	49	271	42	24	6	30
	%		12.5	69.1	10.7	6.1	1.5	7.6
八幡市	實數	1099	163	733	127	60	16	76
	%		14.8	66.7	11.5	5.5	1.5	7.0
商店街	實數	603	88	419	61	28	7	35
	%		14.6	69.5	10.1	4.6	1.2	5.8
勞働者街	實數	496	75	314	66	32	9	41
	%		15.1	63.3	13.3	6.5	1.8	8.3
兩市通計	實數	1907	279	1295	207	98	28	126
	%		14.6	67.9	10.9	5.1	1.5	6.6

第5表　福岡八幡兩市民「ツ」皮內反應分布

地域		被檢者數	−	±	+	++	+++	陽性者
福岡市	實數	825	321	56	174	141	133	448
	%		38.9	6.8	21.1	17.1	16.1	54.3
商店街	實數	427	160	29	84	72	82	238
	%		37.5	6.8	19.7	16.9	19.2	55.8
勞働者街	實數	398	161	27	90	69	51	210
	%		40.5	6.8	22.6	17.3	12.8	52.7
八幡市	實數	1147	487	114	272	138	136	546
	%		42.5	9.9	23.7	12.0	11.9	47.6
商店街	實數	627	287	83	148	51	58	257
	%		45.8	13.2	23.7	8.1	9.2	41.0
勞働者街	實數	520	200	31	124	87	78	289
	%		38.5	6.0	23.8	16.7	15.0	55.6
兩市通計	實數	1972	808	170	446	279	269	994
	%		41.0	8.6	22.6	14.1	14.6	50.4

モ．現在結核患者トシテ病臥セルモノ．及病臥セザルマデモ自己ノ疾病ヲ自覺セルモノハB群ニハ皆無．C群ニ於テモ極ク少數ニ止ルノデアル。

試ミニ余等ノ檢査セル結果ヨリ全國ニ於ケルB群及C群ニ屬スル患者數ヲ推定シテ見ル。

余等ノ「レ」所見判定ヲナセル數ハ第2表ニ示ス樣ニ．1907名デアルガ．實際ノ受檢者ハ1985名デアリ．「レ」所見ノ判定不能ナルモノヽ中ニ．B群或ハC群ニ屬スル患者ノ先ヅ存在セザルベキ事ハ前述セル如クデアルカラ此處ニハ其ノ意味ヨリ便宜上．「レ」檢査人員2000名ト概算シ．之ヨリ日本全國ノ數ヲ推定シテ見タ．日本內地ノ總人口ハ內閣統計年鑑ニヨリ．70,000,000名トスル(之ハ昭和10年度ノ人口デアルガ．之ヨリ新シイ統計ハ見當ラナイ)。

余等ノ檢査ニヨリ2000名中B群98名．C群28名．計126名アルカラ．日本內地總人口70,000.000名中ニハB群3,430,000名C群980,000名合計4,410,000名アルコトヽナル。

前揭ノ表ニヨリ「レ」所見ノ分布．殊ニB群及C群ノ分布ガ．福岡市ト八幡市ノ市別ノ統計ヨリモ．商店街ト勞働者街トノ街種別ノ統計ニ於テ著シイ差異ヲ示ス所カラ．此ノ點ヲ明示スルタメ．第3表ヨリ抽出シテ第6表ヲ作製シタ。

第6表　街種別「レ」所見分布

	被檢者數	A'?	A'	A''	B	C	B+C
商店街	1019	155(15.2)	710(69.7)	99 (9.7)	42 (4.1)	13 (1.3)	55 (5.4)
勞働者街	888	124(14.0)	585(65.9)	108(12.2)	56 (6.3)	15 (1.7)	71 (8.0)

(括弧內ハ%ヲ示ス)

之ニヨツテ見レバ．B群及C群ニ屬スルモノガ．商店街ニ比シ．勞働者街ニ於テ著シク高率ニ存在スル事ヲ知リ得ルノデアル。

尙．余等ガ商店街トシテ擧ゲタ區域ハ．少數ノ飮食店等ヲ除キ殆ド其ノ全部ガ呉服．雜貨等

ノ店舖デアルガ．勞働者街トシテ擧ゲタ地域ハ．八幡市ニ於テハ．日本製鐵會社ノ主トシテ勤續10年以上ノ職工(高級職工)社宅ノミヨリ成リ．福岡市ニ於テハ種々雜多ノ職業ヲ有スル者ノ住宅デアルガ其ノ居住者ノ大部分ハ肉體勞働ニ從事シテ居ルモノデアル。

商店街ハ．兩市共市ノ中心部ニ密集シ．勞働者街ハ何レモ市ノ邊緣部ニアリ．採光．塵埃其他．住居ノ衞生的條件ハ寧ロ勞働者街ガ優レテ居ル。經濟狀態ハ商店街ガ遙カニ勝ツテヰルガ．然シ福岡市ハ兎モ角．八幡市ニ於テハ勞働者街ニ屬スルモノモ．經濟的ニハ相當裕福デアル。榮養(食品)ニ就テハ各戶ニ就テ問ヒ質シタノデアルガ．大ナル差異ヲ認メナカツタ。尤モ此ノ點ハ．直接食品ヲ調査シナケレバ．單ニ各人ニ訊クノミデハ不充分ト思ハレル。

以上ノ點ヨリシテ．商店街ト勞働者街トノ結核患者數ノ差異ハ．職業相異ノ直接ノ影響即チ身體過勞ノ程度ノ差ニソノ原因ノ一部ヲ求ムベキデアラウト思ハレル。併シ又他ニ考ヘラレルコトハ商店街ト勞働者街トノ住民ノ間ニハ病氣ニ對スル關心ノ程度ニ差異アリテ斯ル結果ヲ來タス因ヲナシテヰルノデハナイカト云フコトデアル。

尙附記シテ置キタイ事ハ．余等ノ直接調査セル所ニヨレバ勞働者街ト商店街トヲ問ハズ．結核患者ノ住居ト然ラザルモノヽ住居トハ何等衞生的條件ニ於テ特異ナ差ヲ認メル所ハナカツタト云フコトデアル。換言スレバ住居ノ肺結核症發生頻度ニ對スル影響ハ少クトモ大ナル役割ヲ演ズルモノデナイト思ハレルコトデアル。

次ニ第6表ニ準ジテ街種別ニ「ツ」反應分布ヲ比較シテ見タ。(第7表)

第7表　街種別「ツ」皮內反應分布

區域別	被檢者數	−	±	+	++	+++	陽性
商店街	1054	447(42.4)	112(10.6)	232(22.0)	123(11.7)	140(13.3)	495(47.0)
勞働者街	918	361(39.3)	58 (6.3)	214(23.3)	156(17.0)	129(14.0)	439(54.3)

(括弧內ハ%ヲ示ス)

「ツ」反應ノ結果ニハ．「レ」所見ノ場合ト異リ．著明ニ街種別ノ差異ヲ認ムル事ガ出來ナイ。之ニヨツテ見レバ．結核感染ノ機會ハ商店街ト勞働者街ニ於テ大差ナク．シカモ．B群及C群ニ屬スル如キ相當重キ肺結核ハ勞働者街ニ多ク生ズルト云フ事ヲ云ヒ得ルト思フ。之ハ既ニ觸レタ如ク所謂肺結核症ノ發生ガ生活條件ニヨツテ左右サルヽ所多キヲ物語ルモノトシテ興味ヲ覺エル所デアル。

勿論後述スルガ如ク「ツ」反應ノ結果ハ既往ニ於ケル結核感染ノ有無ヲ端的ニ示スモノデナク．相當ノ誤差アルモノデアルガ．其ノ誤差ハ．前述ノ如キ比較ノ場合ニハ相對的ニハ大體ニ於テ消去サレルモノト考ヘテヨイト思ハレルカラ．比較スル2群ニ於テ「ツ」反應陽性率ガ同一デアレバ．其ノ2群ノ結核感染率ハ略ヾ同一デアルト云フ推定ノ下ニ前述ノ結論ヲ下シタ譯デアル。

次ニ兩市ニ於ケル．「レ」所見及「ツ」反應ノ性別統計ヲ作ツテ見タ。(第8表及第9表)

第 8 表　「レ」所見性別分布

		A'?	A'	A''	B	C	B+C
男　子	945	131	622	121	58	13	71
		(13.9)	(65.8)	(12.8)	(6.1)	(1.4)	(7.5)
女　子	962	149	672	86	40	15	55
		(15.5)	(69.9)	(8.9)	(4.2)	(1.6)	(5.8)

（括弧内數字ハ%ヲ示ス）

第 9 表　「ツ」皮内反應性別分布

		−	±	+	++	+++	陽性
男　子	978	384	94	248	152	100	500
		(39.3)	(9.6)	(25.4)	(15.5)	(10.2)	(51.1)
女　子	994	424	71	198	127	169	494
		(42.7)	(7.6)	(19 9)	(12.8)	(17.0)	(49.7)

（括弧内數字ハ%ヲ示ス）

之等ノ表ニヨレバ．「レ」所見アル者竝ニ「ツ」反應陽性ナル者ハ共ニ男子ニ於テ稍ゝ勝ツテ居ル結果トナル。

次ニ「レ」所見ノ年齡別分布ヲ第 10 表ニ示ス。其ノ結果ヲ圖示スレバ第 11 表ノ如クナル。年齡ハ檢査數ノ關係ヨリ 5 歲單位ニ區分シタ。

之ニヨツテ．15 歲以下ノ弱年者ニハ．其以上ノ年齡者ニ比シ．B,C 級ノ「レ」所見ヲ有スル者ガ相當少イ事ヲ知ル。

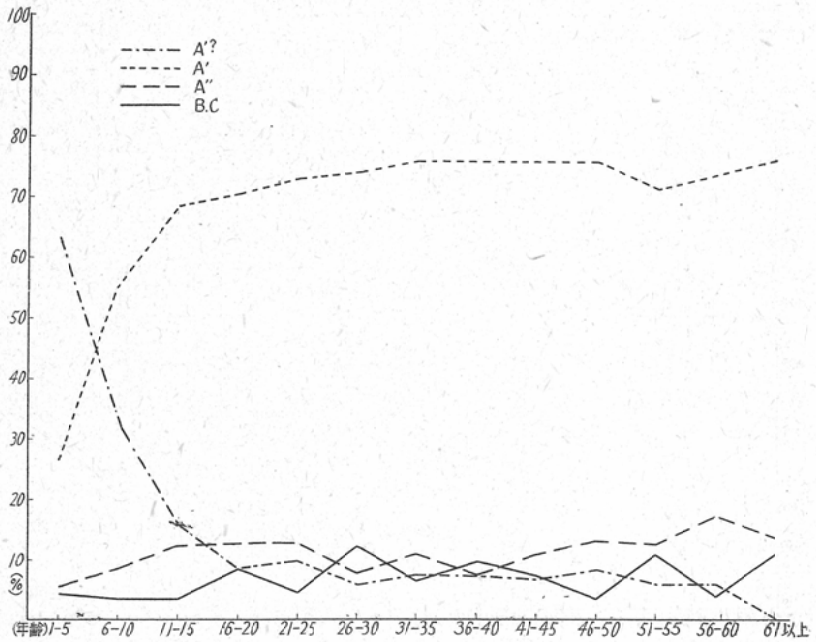
同樣ニ「ツ」反應ノ年齡別分布ヲ第 12 表及第 13 表ニ示ス。

第 10 表　「レ」所見年齡別分布

年　齡	被檢者數	A'?	A'	A''	'B	C	B+C
	1907	279(14.6)	1295(67.9)	207(10.9)	98(5.1)	28(1.5)	116 (6.1)
1 歲—5 歲	113	72(63.7)	30(26.5)	6 (5.3)	4(3.5)	1(0.9)	5 (4.4)
6 歲—10歲	225	74(32.9)	124(55.1)	19 (8.4)	6(2.7)	2(0.9)	8 (3.6)
11歲—15歲	247	40(16.2)	168(68.0)	30(12.1)	7(2.8)	2(0.8)	9 (3.6)
16歲—20歲	295	25 (8.5)	208(70.5)	37(12.5)	20(6.8)	5(1.7)	25 (8.5)
21歲—25歲	155	15 (9.8)	113(72 9)	20(12.9)	5(3.2)	2(1.3)	7 (4.5)
26歲—30歲	154	9 (5.8)	114(74.0)	12 (7.8)	14(9.1)	5(3.2)	19(12.3)
31歲—35歲	111	8 (7.2)	84(75.7)	12(10.8)	5(4.5)	2(1.8)	7 (6.3)
36歲—40歲	112	8 (7.1)	85(75.9)	8 (7.1)	8(7.1)	3(2.7)	11 (9.8)
41歲—45歲	140	9 (6.4)	106(75.7)	15(10.7)	8(5.7)	2(1.4)	10 (7.1)
46歲—50歲	123	10 (8.1)	93(75.6)	16(13.0	4(3.3)	0 (0)	4 (3.3)
51歲—55歲	104	6 (5.8)	74(71.2)	13(12.5)	9(8.7)	2(1 9)	11(10.6)
56歲—60歲	53	3 (5.7)	39(73.6)	9(17.0)	2(3.8)	0 (0)	2 (3.8)
61歲以上	75	0 (0)	57(76.0)	10(13.3)	6(8.0)	2(2.7)	8(10.7)

（括弧内數字ハ%ヲ示ス）

第 11 表　「レ」所見年齢別分布圖



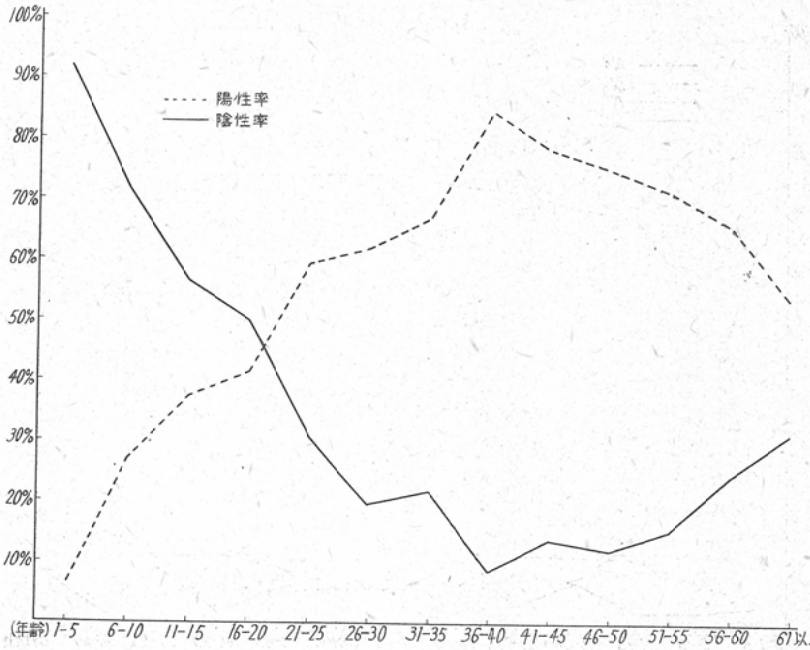
此ノ場合ハ「ツ」反應陽性率ハ 36 歳乃至 40 歳ノ年齢ニ於テ最高ヲ示シ．其ノ上下ニ於テ遞減シテヰル。之ハ「ツ」反應ハ一旦陽性ニナツタモノモ或ル年月ノ經過ニヨツテ陰性化シ得ルモノデアル事ノ一ノ證左デアル。

第 12 表　「ツ」反應年齢別分布

年　齢	被檢者數	−	±	+	++	+++	陽性率
	1972	808(41.0)	170 (8.6)	446(22.6)	279(14.1)	269(13.6)	998(50.6)
1 歳— 5 歳	176	162(92.0)	3 (1.7)	5 (2.8)	3 (1.7)	3 (1.7)	11 (6.2)
6 歳—10歳	228	163(71.5)	4 (1.8)	29(12.7)	28(12.3)	4 (1.8)	61(26.8)
11歳—15歳	247	139(56.3)	16 (6.5)	43(17.4)	25(10.1)	24 (9.7)	92(37.2)
16歳—20歳	296	148(50.0)	26 (8.8)	56(18.9)	37(12.5)	29 (9.8)	122(41.2)
21歳—25歳	150	46(30.7)	15(10.0)	39(26.0)	27(18.0)	23(15.3)	89(59.3)
26歳—30歳	157	31(19.7)	29(18.5)	41(26.1)	24(15.3)	32(20.4)	97(61.8)
31歳—35歳	106	23(21.7)	12(11.3)	34(32.1)	19(17.9)	18(17.0)	71(67.0)
36歳—40歳	116	10 (8.6)	8 (6.9)	35(30.2)	24(20.7)	39(33.6)	98(84.5)
41歳—45歳	139	19(13.7)	11 (7.9)	55(39.6)	25(18.0)	29(20.9)	109(78.4)
46歳—50歳	125	15(12.0)	16(12.8)	37(29.6)	28(22.4)	29(23.2)	94(75.2)
51歳—55歳	105	16(15.2)	14(13.3)	34(32.4)	20(19.0)	21(20.0)	75(71.4)
56歳—60歳	53	13(24.5)	5 (9.4)	16(30.2)	12(22.6)	7(13.2)	35(66.0)
61歳	74	23(31.1)	11(14.9)	22(29 7)	7 (9.5)	11(14.9)	40(54 1)

（括弧內數字ハ％ヲ示ス）

第 13 表　「ツ」皮內反應年齡別分布



(B) 生徒．兒童ニ於ケル檢査結果

余等ハ數年前ヨリ．九大醫學部附屬醫院看護婦．各學部學生．高等女學校生徒等ニ就キ集團的「レ」檢査ヲ行ツテ居ルノデアルケレドモ此ノ檢査ハ．本研究トハ稍ヾ趣ヲ異ニスル所ガアルノデ其ノ結果ヲ此處ニ報告スル事ハ控ヘタ。又之等ノ集團ニ本研究ノ趣旨ニ於テ檢査ヲ施行スル事ハ檢査ノ重複ヲ來ス所ガ生ズルノデ之ヲ行ハズ，結局本研究ニ於テ調査シタ所ハ小學校．中學校．高等學校ノミニ止ル事ニナツタガ其ノ他ノ學校等ニ就テハ又改メテ研究スル積リデアル。

第 14 表．第 15 表．及第 16 表ニ總括的ナ結果ヲ揭ゲタ。

之等ノ結果ニ就テ注目スベキ事ハ．BC等ノ著明ノ「レ」所見ヲ有スルモノガ上級學校ニ至ルニ從ヒ增加シ．殊ニ中學校ト高等學校ノ間ニ飛躍的ニ增加スル事デアル。「ツ」反應陽性率モ增加シテハ居ルガ．斯ル飛躍的ノ增加ハ認メラレナイ。シカモ後揭．第 20 表乃至第 23 表ニ於テ

第 14 表　各學校「レ」所見分布

	被檢者數	A″?	A′	A″	B	C	B+C
小學生	300	65(21.7)	225(75.0)	8 (2.6)	2 (0.7)	0 (0)	2 (0.7)
中學生	309	65(21.0)	228(73.8)	12 (3.9)	4 (1.3)	0 (0)	4 (1.3)
高校生	478	36 (7.5)	359(75.1)	54(11.3)	23 (4.8)	6 (1.3)	29 (6.1)
總計	1087	166(15.3)	812(74.6)	74 (6.8)	29 (2.7)	6 (0.6)	35 (3.3)

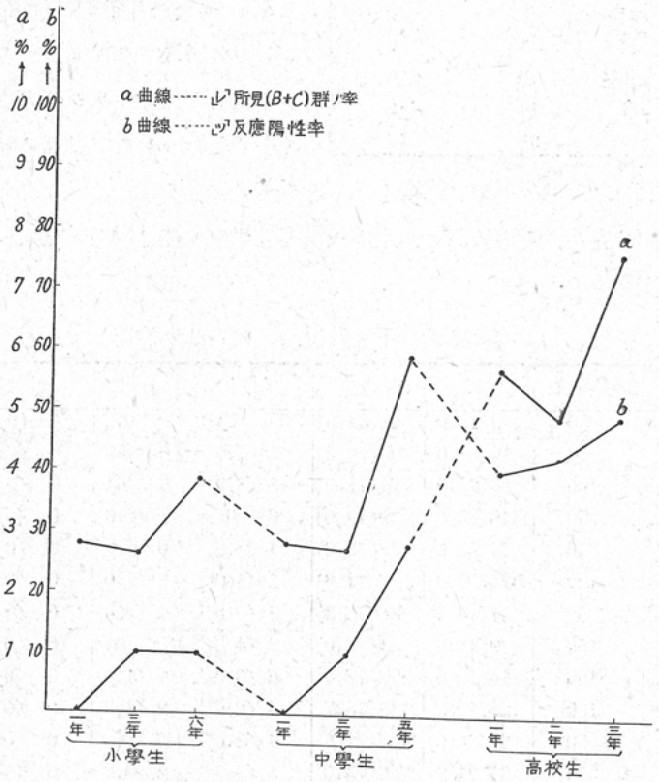
(括弧內ハ%ヲ示ス)

第 15 表　各學校「ツ」皮內反應分布

	被檢者數	−	±	+	++	+++	陽性
小學生	294	198(67.4)	5 (1.7)	25 (8.5)	20 (6.8)	46(15.6)	91(30.9)
中學生	304	183(60.2)	4 (1.3)	38(12.5)	41(13.5)	38(12.5)	117(38.5)
高校生	478	229(47.8)	41 (8.6)	72(15.1)	61(12.8)	75(15.7)	208(43.6)
總計	1076	610(56.8)	50 (4.6)	135(12.5)	122(11.3)	159(14.8)	416(38.6)

（括弧內ハ%ヲ示ス）

第 16 表　各學校各學級「レ」所見及「ツ」皮內反應分布圖



見ラレル樣ニ．中學5年生ノ「ツ」反應陽性率59.0%．高等學校1年生ノソレハ40.1%ナルニ對シ．中學5年生ノ「レ」所見B及Cナルモノ2.8%．高等學校1年生ノソレハ5.7%ニシテ全然逆ニナレル關係ヲ示シテ居ル。卽チ此ノ場合「ツ」反應ハ上級學校ニ於テ寧ロ低下シ(中學5年生ト高校1年生トハ年齡的ニハ大差ナイ)．「レ」所見ハ著明ナ增加ヲ示シテ居ル。

中學生徒ト高校學校生徒トハ其ノ素質ニ於テ異ル所ガアルカモ知レナイガ．コノ高等學校生徒ニ「レ」所見B＋C群ガ飛躍的ニ增加スル事實ハ苛酷ナル入學試驗準備ノ過勞ニヨル所ガ其ノ主タル原因ナルベシト考ヘラル、點ガ大イニ注目スベキモノト思ハレル。

尙．之等ノ生徒ノ檢査ノ場合．長期缺席或ハ休學．退學ノタメ檢査ヲ實施シ得ナイモノガア

第 17 表　非受檢者表

學校別	學年別		非受檢者數	結核患者
中等學校	1年		1	1
	3年		3	0
	5年		7	3
	小計		11	4
高等學校	1年	文科	4	2
		理科	4	1
	2年	文科	2	2
		理科	3	3
	3年	文科	1	0
		理科	0	0
	小計		14	8
總計			25	12

ツタ。之ヲ第17表ニ數示シタ。

表中非受檢者數トシテ擧ゲタルモノガ其等ノ休學．退學者ノ數デアリ．其ノ中．明瞭ニ結核症ノ診斷書ヲ添附シテ屆出アルモノハ別ニ結核患者トシテ揭示シタ。非受檢者ニシテ．明瞭ナ診斷ヲ附セラレテ居ナイモノモ．高等學校理科1年1名（家事ノ都合）．及文科3年1名（應召）ヲ除ク他ハ主トシテ病氣ニヨルモノデアリ．且ツ缺席數ノ長期ナル點ヨリシテ大部分ハ結核ニヨルモノト思ハレル。之等ノ數ヲ加算スレバ．B＋C群（主トシテC群）ノ率ハ更ニ高率トナルベキモノデアル。

第18表以下第23表ニ．小學校兒童．中學校及高等學校生徒ノ「レ」所見及「ツ」反應結果ヲソレゾレ學年別ニ表示シタ。

第 18 表　小學校學年別「レ」所見分布

		被檢者數	A?	A′	A″	B	C	B+C
1年	男	50	9(18.0)	41(82.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	女	50	19(38.0)	30(60.0)	1 (2.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		100	28(28.0)	71(71.0)	1 (1.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3年	男	50	10(20.0)	39(78.0)	0 (0)	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)
	女	50	11(22.0)	38(76.0)	1 (2.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		100	21(21.0)	77(77.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	0 (0)	1 (1.0)
6年	男	50	7(14.0)	38(76.0)	4 (8.0)	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)
	女	50	9(18.0)	39(78.0)	2 (4.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		100	16(16.0)	77(77.0)	6 (6.0)	1 (1.0)	0 (0)	1 (1.0)
總計	男	150	26(17.3)	118(78.7)	4 (2.6)	2 (1.3)	0 (0)	2 (1.3)
	女	150	39(26.0)	107(71.3)	4 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	300	65(21.7)	225(75.0)	8 (2.6)	2 (0.7)	0 (0)	2 (0.7)

（括弧內ノ數字ハ%ヲ表ハス）

第 19 表　小學校學年別「ツ」反應分布

		被檢者數	−	±	+	++	+++	陽性
1年	男	47	32(68.1)	2 (4.3)	5(10.6)	4 (8.5)	4 (8.5)	13(27.6)
	女	50	35(70.0)	1 (2.0)	2 (4.0)	4 (8.0)	8(16.0)	14(28.0)
	小計	97	67(69.1)	3 (3.1)	7 (7.2)	8 (8.2)	12(12.4)	27(27.8)
3年	男	50	37(74.0)	0 (0)	5(10.0)	5(10.0)	3 (6.0)	13(26.0)
	女	49	36(73.5)	0 (0)	1 (2.0)	2 (4.1)	10(20.4)	13(26.5)
	小計	99	73(73.7)	0 (0)	6 (6.1)	7 (7.1)	13(13.1)	26(26.3)
	男	50	26(52.0)	1 (2.0)	8(16.0)	1 (2.0)	14(28.0)	23(46.0)

6年	女	48	32(66.7)	1 (2.1)	4 (8.3)	4 (8.3)	7(14.6)	15(31.2)
	小計	98	58(59.3)	2 (2.0)	12(12.2)	5 (5.1)	21(21.4)	38(38.7)
總計	男	147	95(64.7)	3 (2.0)	18(12.2)	10 (6.8)	21(14 3)	49(33.3)
	女	147	103(70.0)	2 (1.4)	7 (4.8)	10 (6.8)	25(17.0)	42(28.6)
	計	294	198(67.4)	5 (1.7)	25 (8.5)	20 (6.8)	46(15.6)	91(30.9)

（括弧內ノ數字ハ%ヲ表ハス）

第 20 表　中學校學年別「レ」所見分布

	被檢者數	A″?	A′	A″	B	C	B+C
1　年	103	22(21.4)	79(76.7)	2 (1.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3　年	100	25(25.0	72(72.0)	2 (2.0)	1 (1.0)	0 (0)	1 (1.0)
5　年	106	18(17.0)	77(72.7)	8 (7.5)	3 (2.8)	0 (0)	3 (2.8)
總　計	309	65(21.0)	228 73.8)	12 (3.9)	4 (1.3)	0 (0)	4 (1.3)

（括弧內ノ數字ハ%ヲ表ハス）

第 21 表　中學校學年別「ツ」反應分布

	被檢者數	−	±	+	++	+++	陽性
1　年	103	73(70.8)	1 (1.0)	15(14.6)	6 (5.8)	8 (7.8)	29 28.2)
3　年	96	69(71.9)	1 (1.0)	3 (3.1)	9 (9.4)	14(14.6)	26(27.1)
5　年	105	41(39.1)	2 (1.9)	20(19.0)	26(24.8)	16(15.2)	62(59.0)
總　計	304	183(60 2)	4 (1.3)	38(12.5)	41(13.5)	38(12 5)	117(38.5)

（括弧內ノ數字ハ%ヲ表ハス）

第 22 表　高等學校學年別「レ」所見分布

		被檢者數	A″?	A′	A″	B	C	B+C
1年	文科	116	9 (7.8)	90(77.5)	11 (9.5)	6 (5.2)	0 (0)	6 (5.2)
	理科	76	4 (5.3)	59(77.7)	8(10.5)	3 (3.9)	2 (2.6)	5 (6.5)
	計	192	13 (6.8)	149(77.6)	19 (9.9)	9 (4.7)	2 (1.0)	11 (5.7)
2年	文科	85	4 (4.7)	69(81.2)	8 (9.4)	3 (3.5)	1 (1.2)	4 (4.7)
	理科	59	9(15.3)	42(71.1)	5 (8.5)	2 (3.4)	1 (1.7)	3 (5.1)
	計	144	13 (9.0)	111(77.1)	13 (9.0)	5 (3.5)	2 (1.4)	7 (4.9)
3年	文科	81	5 (6.2)	57(70.4)	13(16.0)	4 (4.9)	2 (2.5)	6 (7.4)
	理科	61	5 (8.2)	42(68.8)	9(14.8)	5 (8.2)	0 (0)	5 (8.2)
	計	142	10 (7.0)	99(69.9)	22(15.5)	9 (6.2)	2 (1.4)	11 (7.6)
總計	文科	282	18 (6.4)	216(76.6)	32(11.3)	13 (4.6)	3 (1.1)	16 (5.7)
	理科	196	18 (9.2)	143(73.0)	22(11.2)	10 (5.1)	3 (1.5)	13 (6.6)
	計	478	36 (7.5)	359(75.1)	54(11.3)	23 (4.8)	6 (1.3)	29 (6 1)

（括弧內ノ數字ハ%ヲ表ハス）

第 23 表　高等學校學年別「ツ」反應分布

		被檢者數	−	±	+	++	+++	陽性
1年	文科	116	60(51.6)	9 (7.8)	19(16.4)	11 (9.5)	17(14.7)	47(40.6)
	理科	76	39(51.4)	7 (9.2)	8(10.5)	8(10.5)	14(18.4)	30(39.4)
		192	99(51.6)	16 (8.3)	27(14.1)	19 (9.9)	31(16.1)	77(40.1)
	文科	85	42(49.4)	4 (4.7)	13(15.3)	16(18.8)	10(11.8)	39(45.9)

2年	理科	59	24(40.7)	13(22.0)	11(18.6)	5 (8.5)	6(10.2)	22(37.3)
		144	66(45.8)	17(11.8)	24(16.7)	21(14.6)	16(11.1)	61(42.4)
3年	文科	81	37(45.6)	5 (6.2)	16(19.8)	15(18.5)	8 (9.9)	39(48.2)
	理科	61	27(44.3)	3 (4.9)	5 (8.2)	6 (9.8)	20(32.8)	31(50.8)
		142	64(45.1)	8 (5.6)	21(14.8)	21(14.8)	28(19.7)	70(49.3)
	文科	282	139(49.3)	18 (6.4)	48(17.0)	42(14.9)	35(12.4)	125(44.3)
	理科	196	90(46.0)	23(11.7)	24(12.2)	19 (9.7)	40(20.4)	83(42.3)
	計	478	229(47.8)	41 (8.6)	72(15.1)	61(12.8)	75(15.7)	208(43.6)

（括弧内ノ數字ハ%ヲ表ハス）

之等ノ表ニ就テ特ニ說明ヲ加ヘル事ハ略スル。

(C) 檢査結果ノ綜合的觀察

(1)「レ」所見ト「ツ」反應トノ喰違

從來集團檢診ノ場合，集團ノ全部ニ先ヅ「ツ」反應檢査ヲ試ミ，其陽性發現者ノミニ「レ」檢査其他ノ檢査ヲナス事ガ行ハレテヰル向ヲ見受ケル。

之ハ，結核感染者ハスベテ「ツ」反應陽性者デアル，少クトモ「ツ」反應陽性者ニハ余等ノ所謂B，C級結核患者卽チ要監視者及要治療者ハ悉クトマデハ云ヘナイトシテモ，實際上ニハ之レガ見逃サルヽノヲ無視シ得ル程度マデニ含マレテ居ルト言フ前提ノ下ニ行ハレテヰルモノト見ナケレバナラナイ。

果シテ然ルヤ否ヤ，之ヲ統計的ニ吟味スルコトヽシタ。第24表及第25表ハ，余等ノ分類セル「レ」所見ノ各群ニ於テ「ツ」反應ガ如何ニ分布セルカヲ概觀セシメルモノデアル。

第 24 表　「レ」所見各群ニ於ケル「ツ」皮內反應分布

	被檢者數	(−)	(±)	(+)	(++)	(+++)	陽性
A′?	435	325(74.7)	18 (4.1)	33 (7.6)	34 (7.8)	25 (5.7)	92(21.1)
A′	2089	910(43.6)	164 (7.9)	420(20.1)	289(13.8)	306(14.6)	1015(48.6)
A″	281	90(32.0)	19 (6.8)	71(25.3)	47(16.7)	54(19.2)	172(61.2)
B	126	15(11.9)	9 (7.1)	38(30.2)	27(21.4)	37(29.4)	102(81.0)
C	33	6(18.2)	4(12.1)	8(24.2)	8(24.2)	7(21.2)	23(69.7)
計	2964	1346(45.4)	214 (7.2)	570(19.2)	405(13.7)	429(14.5)	1404(47.4)

（括弧内ハ%ヲ示ス）

第 25 表　「レ」所見各群ノ種々ノ組合セト其ノ「ツ」皮內反應分布

	(−)	(±)	陽性	計
B+C	21(13.2)	13 (8.2)	125(78.6)	159
A″+B+C	111(25.2)	32 (7.3)	297(67.5)	440
A′+A″+B+C	1021(40.4)	196 (7.8)	1312(51.9)	2529
K+P+A″+B+C	157(22.3)	53 (7.5)	494(70.2)	704

（K‥‥A′中ノ石灰化竈ヲ認ムルモノ　P‥‥A′中ノ肋膜炎痕跡ヲ認ムルモノ）
（括弧内ハ%ヲ示ス）

冒頭ニ於テ述ベタ如ク，余等ノ判定セルA′群ニ屬スル「レ」所見ニハ，之ヲ確實ニ結核性變

化乃至ハソノ痕跡ナリト斷定スルコトニ對シテハ他ノ判定者ニヨツテハ疑念ヲ插シ狹マル、餘地ナキニシモアラズト思ハレルモノヲ含ムノデアルガ．斯ル惧レノナイト思ハレル．B, C, A′群．及ビA′群中ノ者ニシテ著明ナル石灰化竈陰影或ハ肋膜炎痕跡ヲ有スルモノヲ取リ出シテ見ルモ．(第25表最下段)此等ノ中ニ「ツ」反應陰性ナルモノ22.3%擬陽性者7.5%計約30%アルコトハ「ツ」皮內反應ヲ以テ曾テ或ハ現在結核ニ感染セリヤ否ヤヲ判定セムトスル場合如何ニ誤差多キカヲ豫想シ得ル事實デアル。

唯「レ」所見ノ高度ナル群程「ツ」反應陰性率ハ低下セル事ハ認メラレル。併シB＋C群ニノミ就イテ見ルモ陰性者13.2%擬陽性者8.2%計21.4%アルコトヨリ見レバ集團檢診ノ場合．「ツ」反應陽性者ノミニ「レ」檢査ヲ施スモノト假定スレバ「レ」檢査人員ヲ半減スルノ利アル代リニB乃至C群ニ屬スル患者ノ約5分ノ1以上ヲ見逃ス危險アルコトヲ覺悟シナケレバナラナイ。コノコトヲ考慮スレバ結核豫防ノ目的ヨリ集團檢診ヲ行フ場合．其ノ損失大ナルコトハ說明ノ要ナキモノト思フ。

「ツ」反應ガ陽性ナル場合．ソノ陽性ノ程度ト．結核性病變ノ程度トガ必ズシモ平行スルモノデナイ事ハ誰シモ認メテ居ル事デアルガ．更ニ之ヲ押シ入メルナラバ極限ニ於テハ．結核性病變ヲ有スルモ「ツ」反應陰性ナル者ノ存在スベキ事ハ當然ノ結論デナケレバナラヌ。

斯クノ如ク「ツベルクリン」感受性ハ同一程度ノ病變ヲ有スル場合モ各個人ノ素質ニヨリ．又同一人ニ於テモ種々ノ要約ニヨツテ變化スルモノデアルト同時ニ．又一方．一旦結核ニ感染シテ「ツ」反應陽性トナルモ．結核ガ治癒スルニ從ツテ漸次「ツ」反應ガ陰性化スル事モ認メラレテ居ル事柄デアル。斯ル事實カラシテ余等ノ調査ニ於テA′群ニ於ケル「ツ」反應陰性率ガ甚ダ高度デアル事モ首肯サレルト思フ。コノコトニ就イテハ著者ノ1人中島ガ既ニ數年前警告ヲ發シテヰル(昭和11年6月5日發行日本放射線醫學會雜誌第3卷第2號參照)。

以上ノ統計トハ逆ニ．集團檢診ノ際未感染者トシテ除外セラルヽ傾向アル「ツ」反應陰性者或ハ擬陽性者ノ「レ」所見ガ如何ナル樣相ヲ呈スルカヲ分類シタモノガ第26表及ビ第27表デアル

第26表　「ツ」皮內反應陰性ナルモノヽ「レ」所見分布

A′?	A′	A″	B	C	計
325 (24.1)	910 (67.6)	90 (6.7)	15 (1.1)	6 (0.4)	1346
			21 (1.6)		
		111 (8.2)			
	1021(75.9)				

(括弧內ハ%ヲ示ス)

第27表　「ツ」皮內反應陰性及擬陽性ナルモノヽ「レ」所見分布

A′?	A′	A″	B	C	計
343 (22.0)	1074 (68.8)	109 (7.0)	24 (1.5)	10 (0.6)	1560
			34 (2.2)		
		143 (9.2)			
	1217(78.0)				

(括弧內ハ%ヲ示ス)

以上ノ第24—27表ニ掲ゲタル事實ヨリ．集團檢診ニ於テ「ツ」反應陽性者ノミヲ結核感染者トシテ取扱フ事ノ危險ナル事ハモトヨリ肺ノ「レ」寫眞上何等ノ確實ナル結核性變化ヲ認メザル者ニ於テ「ツ」反應陽性轉化ヲ見タトテ直チニ之ヲ初感染者ナリト斷定スルコトノ誤リデアル事ガ解ル。

(2)年齡ニヨル「ツ」反應陽性出現傾向ノ差異

第28表ニ於テ．BC級ニ屬スル者ノ「ツ」反應ノ分布ヲ年齡別ニ見ルト．10歲以下ノ幼年者ニ於テハ．ソレ以上ノ年齡者ニ於ケルモノニ比シ．比較ニナラヌ程高率ニ「ツ」反應陰性者ガ存在スル事ヲ知ルノデアルガ．コノコトハ「ツ」反應陽性出現傾向ニ年齡ニヨル差異アルコトヲ示ス興味アル事實ト思フ。(第28表)

第 28 表　(B+C)群「ツ」皮內反應ノ年齡別分布

年　齡	(B+C)所見者數	(−)	(±)	(+)	(++)	(+++)	陽性
1—10歲	14	4(28.6)	0 (0)	5(35.7)	4(28.6)	1 (7.1)	10(71.4)
11—20	51	7(13.7)	2 (3.9)	13(25.5)	10(19.6)	19(37.3)	42(82.4)
21—30	41	7(17.1)	6(14.6)	6(14.6)	7(17.1)	15(36.6)	28(68.3)
31—40	18	0 (0)	2(11.1)	4(22.2)	5(27.8)	7(38.9)	16(88.9)
41—50	14	1 (7.1)	2(14.3)	6(42.9)	5(35.7)	0 (0)	11(78.6)
51—	21	2 (9.5)	1 (4.8)	12(57.1)	4(19.0)	2 (9.5)	18(85.7)
計	159	21(13.2)	13 (8.2)	46(28.9)	35(22.0)	44(27.7)	125(78.6)

(括弧內ハ%ヲ示ス)

第29表ニハA′群中ニテ．誰ガ見テモ一見疑ナキ石灰化竈或ハ肋膜炎痕跡ヲ有スルモノヲ取リ出シ夫レニ就テ．「ツ」反應ヲ年齡別ニ見タ統計ヲ揚ゲテ置イタ．(第29表)

第 29 表　A′ 群中肋膜炎痕跡及石灰化竈ヲ有スルモノヽ「ツ」皮內反應年齡別分布

年　齡	肋膜炎痕跡 石灰化竈 所見者數	(−)	(±)	陽性
1—10歲	20	4 (20.0)	0 (0)	16 (80.0)
11—20	109	26 (23.9)	6 (5.5)	77 (70.6)
21—30	47	4 (8.5)	5 (10.6)	38 (80.9)
31—40	21	1 (4.8)	1 (4.8)	19 (90.5)
41—50	36	4 (11.1)	3 (8.3)	29 (80.6)
51—	31	7 (22.6)	6 (19.4)	18 (58.1)
計	264	46 (17.4)	21 (8.0)	197 (74.6)

(括弧內ハ%ヲ示ス)

コノ表ニヨレバ1歲乃至10歲．11歲乃至20歲ノ幼年者．若年者ガ壯年者ニ比シテ．斷然「ツ」反應陰性率ガ高イ結果ヲ認メル。又51歲以上ノ老年者モ亦陰性率ガ高イ結果トナツテヰル。コレ等ノ事實モ．一面ニ於テハ「ツ」反應陽性出現ノ難易ノ度ニ年齡ニヨル差異アルコトヲ示スモノト考ヘラレル。併シコノ場合ハ．B, C 級ノ變化アル者ノ場合ト異リ．兎モ角モ結核竈ハアルニシテモ完全ニ治癒シタ者ニ就イテノ統計デアルノデ第28表ノ成績トハ稍ヽ異ル點アルハ當然ノコトデアル。第29表ニ於テハ1歲—10歲ノ者ト11歲—20歲ノ者トノ「ツ」反應陰性

率ガ略ボ等シクシテ共ニ高率ヲ示シテヰルガ．コノ事實ハ幼時ニ一度結核ニ侵サレタルモノガ20歲頃マデノ間ニ完全ニ治癒シ爲ニ曾テ「ツ」反應陽性ナリシモノガ陰性トナツタモノガ多イコト．又斯ル者モ．恐ラク靑春期頃ヨリ輕度ノ再感染乃至ハ再燃アリテ（但シ寫眞上ニハ見エナイ）其以上ノ年齡ニ於テハ再ビ「ツ」反應陽性ニナル機會增加スルコトノ表現デナイカト余等ハ考ヘテヰル。又50歲以上ノ老年者ニ高率ニナルノモ同樣ニ說明スベキデナイカト思フ。

第30表．第31表．第32表ニハ，ソレゾレA″，A′，A′?ノ所見者ニ就イテ年齡別ニ「ツ」反應分布ヲ示シテオイタ。是等ノ場合ニ於テモ1歲乃至10歲ノモノニ「ツ」反應陰性率ハ甚ダシク高率ヲ示シテヰルケレドモ．結核感染者モ年齡ト共ニ增加スベキモノデアルカラ．前二者ノ場合ト異リ「ツ」反應陽性傾向度ノ年齡ニヨル差異アルコトヲ證スル力ハ弱イモノデアル。

第 30 表　A″ 群ノ「ツ」皮內反應年齡別分布

年　齡	A″ 所見者數	(−)	(±)	(+)	(++)	(+++)	陽性
1—10歲	26	18(69.2)	0 (0)	4(15.4)	2 (7.7)	2 (7.7)	8(30.8)
11—20	106	41(38.7)	9 (8.5)	24(22.6)	13(12.3)	19(17.9)	56(52.8)
21—30	65	14(21.5)	6 (9.2)	12(18.5)	17(26.2)	16(24.6)	45(69.2)
31—40	20	3(15.0)	1 (5.0)	8(40.0)	5(25.0)	3(15.0)	16(80.0)
41—50	32	7(21.9)	1 (3.1)	10(31.3)	6(18.8)	8(25.0)	24(75.0)
51—	32	7(21.9)	2 (6.3)	13(40.6)	4(12.6)	6(18.8)	23(71.9)
計	281	90(32.0)	19 (6.8)	71(25.3)	47(16.7)	54(19.2)	172(61.2)

（括弧內ハ%ヲ示ス）

第 31 表　A′ 群ノ「ツ」皮內反應年齡別分布

年　齡	A′ 所見者數	(−)	(±)	(+)	(++)	(+++)	陽性
1—10歲	286	197(68.9)	7 (2.4)	29(10.1)	31(10.8)	22 (7.7)	82(28.7)
11—20	866	482(55.7)	51 (5.9)	133(15.4)	96(11.1)	104(12.0)	333(38.5
21—30	405	147(36.3)	44(10.9)	86(21.2)	68(16.8)	60(14.8)	214(52.8)
31—40	167	25(15.0)	16 (9.6)	56(33.5)	27(16.2)	43(25.7)	126(75.4)
41—50	196	19 (9.7)	21(10.7)	71(36.2)	36(18.4)	49(25.0)	156(79.6)
51—	169	40(23.7)	25(14.8)	45(26.6)	31(18.3)	28(16.6)	104(61.5)
計	2089	910(43.6)	164 (7.9)	420(20.1)	289(13.8)	306(14.6)	1015(48.6)

（括弧內ハ%ヲ示ス）

第 32 表　A′? 群ノ「ツ」皮內反應年齡別分布

年　齡	A′? 所見者數	(−)	(±)	(+)	(++)	(+++)	陽性
1—10歲	186	169(90.9)	2 (1.1)	6 (3.2)	6 (3.2)	3 (1.6)	15 (8.1)
11—20	165	121(73.3)	7 (4.2)	11 (6.7)	15 (9.1)	11 (6.7)	37(22.4)
21—30	40	22(55.0)	5(12.5)	8(20.0)	3 (7.5)	2 (5.0)	13(32.5)
31—40	16	5(31.3)	1 (6.3)	2(12.5)	5(31.3)	3(18.8)	10(62.5)
41—50	19	4(21.1)	2(10.5)	5(26.3)	3(15.8)	5(26.3)	13(68.4)
51—	9	4(44.4)	1(11.1)	1(11.1)	2(22.2)	1(11.1)	4(44.4)
計	435	325(74.7)	18 (4.1)	33 (7.6)	34 (7.8)	25 (5.7)	92(21.1)

（括弧內ハ%ヲ示ス）

第32表ニ於テ A′? 群ニ於テモ，「ツ」反應陽性者ガ A′ 群ニ於ケルモノノ約半分程度ノ率ニ存在スルノハ A″? 群トシテ余等ガ分類セルモノハ既述ノ如ク「レ」寫眞上確實ナル結核感染ノ形跡ヲ認メ得ザルモノデアルガ，コノ中ニモ一度結核ニ罹リ，肺ノ「レ」寫眞ニハ余等ノ眼識ヲ以テシテハソノ痕跡ヲ確認シ能ハヌマデニ綺麗ニ治癒シタモノガ多數ニ存在スルト云フコトヲ現ハシテヰルト思フ。但シ稀ニハ一度モ結核ニ感染シタルコトナキ者デ先天性ニ「ツ」反應陽性ニ出現スルモノ (Nichtallergische Pathergie nach Urbach) モ混在スルデアラウコトハ否マレナイケレドモ，「レ」像ニヨリテハモトヨリ，病理解剖學的ニモ現在ニ於テハ未感染者ヲ確實ニ決定スルコトハ不可能事デアルカラ，コレ以上ノ解決ハ出來ナイモノト思フ。

(3)「ツ」反應陽性發現傾向ノ家族的偏倚

「ツ」反應ハ生物學的反應デアルカラ被檢者ノ先天性素質ニヨツテソノ出現度ニ差異アルベキコトハ既ニ注意シタ通リデアル。從ツテ家族別ニソノ出現ニ難易ノ差ガアルダラウトハ當然考ヘラレル所デアル。偶然余等ハ「レ」所見ト「ツ」反應結果トヲ比較シテヰル間ニ家族別ニ「ツ」反應陽性出現度ニ差アル如キ感ジヲ與ヘラレタ。卽チ同ジク B, C 程度ノ患者ヲ有スル家族デアリナガラ或ル家族ニ於テハ殆ド全家族員ガ「ツ」反應陰性デアリ，反對ニ他ノ家族デハ殆ドスベテガ陽性デアル。一方，家族員ノスベテガ著明ナ「レ」所見ヲ有シナイ家族デアリ乍ラ，「ツ」反應ガ殆ドスベテニ陽性ニ發現シ，又他ノ家族デハ反對ニスベテガ陰性デアル樣ナコトニ時々遭遇シタ。ソレデソノ關係ヲ統計的ニ調査シテ見タイト考ヘタノデアル。ソレニハ余等ハ先ヅ被檢家族中ヨリ五人以上ノ家族員ヲ有スル家族ヲ選ビダシタ。ソレ等ノ各家族ニ就イテ，「レ」所見 A′, A″, B, C ヲ有スル者ノ數ヲ調ベ其ノ數ヲ b ヲ以テ表ハシ，各家族ノ總人員數ヲ a ヲ以テ表ハシ假リニ $\frac{b}{a}$ ヲ以テ各家族ノ結核感染率トシタ。又一方ニ於テ各家族員ノ「ツ」反應陽性者數ヲ調ベ之ヲ c ヲ以テ表ハシ，假リニ $\frac{c}{a}$ ヲ以テ各家族ノ「ツ」反應陽性率トシタ。ソシテコノ各家族ノ「ツ」反應陽性率ヲ各家族ノ感染率ヲ以テ除シタル數ヲ以テ各家族ノ「ツ」反應陽性出現傾向度ヲ表ハスモノト考ヘタ。勿論之ガ的確ニ乃至ハ忠實ニ各家族ノ「ツ」反應陽性出現傾

第 33 表　「ツ」反應陽性發現傾向ノ家族的關係

α	家族數	α	家族數
0	5	0.67	14
0.20	6	0.71	3
0.25	6	0.75	5
0.33	9	0.80	13
0.38	1	0.83	6
0.40	17	0.86	3
0.43	3	1.00	24
0.50	20	1.17	2
0.57	4	1.67	2
0.60	17	2.00	2
0.62	1		

同一家族內ニ於ケル總人員ヲ a
「レ」所見 A′, A″, B, C ノ者ノ數ヲ b
「ツ」反應陽性ナル者ノ數ヲ c
「ツ」反應陽性發現傾向度ヲ α トシ

$$\alpha = \frac{\frac{c}{a}}{\frac{b}{a}} = \frac{c}{b}$$ ヲ以テ現ハス

向度ヲ現ハスモノデナク異論ヲ插シ狹ム餘地アルコトハ明カデアルガ或ル程度ニハ之ヲ表ハシテヰルコトハ否メナイト思フ。

第33表ハ以上ノ如クシテ得タ各家族ノ「ツ」反應陽性出現傾向度ヲ表示シタモノデアル。

右表ヲ通覽スレバ家族別ニヨリテ「ツ」反應ガ陽性ニ出現スル傾向ニ相當著明ナ差アルコトヲ知ル。

(4)「レ」所見分布ノ家族的關係

肺結核ニ於テ家族內傳染ノ危險大ナル事ハ多クノ人ノ認メテヰル所デアル。余等ノ一人中島ノ結核豫防撲滅國策私案ニ於テ特ニ傳染源トナルベキ無自覺性結核患者ノ摘發ニ重點ヲ置イテヰルノモ，主トシテコノ理由ニヨルノデアル。勿論臨牀的ニハ同一家族ヨリ數人ノ結核患者ガ相次イデ發生スルコトニハ余等モ日常遭遇シテヰル。併シ家族的發生ノ頻度ニ關スル統計的調査ハ餘リナイ樣デアル。余等モコノ機會ニ統計的ニ立證シテミタイト思ツタノデアルガ，コノコトハ容易デナイ。ソレハ結核症ニテ死亡シタルモノアリヤ否ヤヲ確實ニ知ル方法ガナイカラデアル。

余等ハ試ミニB, C程度ノ變化アル者ノ居ル家族ト，斯ルモノノ現在居ナイ家族ニ就イテA″, ,BC程度ノ所見アル者並ニA′所見者中明カナ石灰化竈或ハ肋膜炎痕跡アル者ノ數ヲ調ベテ間接ニ家族傳染ノ危險ノ程度ヲ知ラムトシタ。ソノ調査ノ結果ハ第34表ニ示ス通リデアル。

第34表　「レ」所見分布ノ家族的關係

		B, C 所見者ノアル家族群			B, C 所見者ノナキ家族群		
		總人員	石灰化竈又ハ肋膜炎痕跡ノアルモノ及A″B,C者	A′?A′ノ者	總人員	石灰化竈又ハ肋膜炎痕跡ノアルモノ及A″ノモノ	A′? A′ノ者
福岡市	商店街	77	34(44.2)	43(55.8)	336	60(17.9)	276(82.1)
	勞働者街	111	49(44.1)	62(55.9)	281	52(18.5)	229(81.5)
	小計	188	83(44.1)	105(55.9)	617	112(18.2)	505(81.8)
八幡市	商店街	76	35(46.1)	41(53.9)	316	59(18.7)	257(81.3)
	勞働者街	178	96(53.9)	82(46.1)	317	85(26.8)	232(73.2)
	小計	254	131(51.6)	123(48.4)	633	144(22.7)	489(77.3)
總計		442	214(48.4)	228(51.6)	1250	256(20.5)	994(79.5)

(括弧內ハ%ヲ示ス)

右表ヲ觀レバ明カナル如ク，現在B, C級ノ所見ヲ有スル者ノアル家族ニハ，然ラザル家族ニ比シ，A″以上B, C並ニ明カナル結核病變ノ痕跡アル者ノ數ガ平均約二倍半(48.4%對20.5%)ノ濃度ニ有ルノデアル．モシ既ニ結核ニテ死亡シタル者ノ數ヲ正確ニ擧ゲ得レバ結核ノ家族的偏在ハ恐ラク遙カニ增强スルモノト思ハレル。

V　B′C 級患者ノ治療期間

當初ニ述ベタ樣ニB′級ハ本來B級ニ入ルベキモノデアルガBトシテハ病變稍ゝ重キタメ，

事情許セバ直チニ治療開始シタキモノト思ハル、程度ノモノデアル。　C級ノモノハ直チニ治療開始セザレバ生命ニ危險アルモノト考ヘラレタモノデアルガ、治療スルトナレバ必ズシモB′級ノモノガC級ノモノヨリモ全治マデニ要スル期間ガ短イト云フ譯ニ行カナイ。

余等ハ結核豫防國策私案ヲ樹ツル上ニ於テ一般住民ノB′, C級患者數竝ニソノ豫後治療期間ヲ知ル必要ヲ感ジタノデアルガ、余等ガ今回ノ市民檢査人員1907名中ニC級患者28名、B′級患者15名ヲ數ヘテヰル。

C級患者28名中余等ニ假令「レ」治療ヲ委セラレテモ全快セシメ得ルカ否カ不明ノ者ガ5名アツタ。中1名ハ3歲ノ小兒ニテ余等ハ斯ル小兒ヲ治療シタ經驗ナキタメニ判定シ得ナカツタ。他ノ一人ハ片側ニ於テ肋膜肥厚甚敷ク一枚ノ概觀撮影寫眞ノミニテハ內部ノ變化ノ程度ヲ察知スルコトガ出來ズ從ツテ豫後ノ判定ガ出來ナカツタモノデアル。他ノ3名ハ病氣ノ程度餘リニ進行セルタメ、治療前ニ全治セシメ得ルカ否カノ判定ヲ下シ得ナカツタモノデアル。其他ニ余等ハ之ヲ治療ニヨツテ全治セシメ得ルモノトハ考ヘルガ果シテ幾何ノ期間ニテ全治セシメ得ルカ不明ノモノガ3名アル。之等ヲ纏メテ第35表ニ示シテ置イタ。尙B′級ノ患者ニ就テモ、モシ治療ヲ施ストスレバ大凡何程ノ治療期間ヲ要スルモノナルカノ推定ヲ同ジク第35表ニ示シテ置イタ。

第35表　B′及C群ノ治療豫定期間

		人　數	治療延月數	平均治療月數	最高治療月數	最低治療月數
B′		15	126	8.4	12	6
C	治療期間ヲ豫定シ得ルモノ	20	232	17.9	24	8
	豫後不明ナル者及治療期間ヲ豫定シ得ザル者	8		24.0		

此ノ種ノ重症者ハ相當長期間ノ治療ニヨリ治癒スルモアリ，或ハ早晩死亡スルモノモアラウ。後述治療費用ノ計算上之等患者ノ平均治療期間ヲ定ムル必要ヲ感ジタノデ余等ノ經驗其他ヲ參照シテ大體此ノ樣ニ定メタ。恐ラクコレヨリ短キモノト思フ。

VI　B′級C級患者ノ治療費負擔能力調査

集團檢診ノ目的ハ單ニ患者ヲ發見スルノミデ終ツテ居ルワケデナク更ニ進ンデ發見シタ患者ヲ處置シナケレバナラナイ。出來得レバ余等ノ分類セルC群或ハB′群ニ屬スルモノハ入院セシメテ他ヨリ隔離シ、患者自身ニモ積極的ナ治療ヲ行ハナケレバナラナイ。

患者ニ入院治療ヲ施ス場合ニ、1人當リ果シテ何程ノ治療費ヲ要スルカト言フ事ハ明確デナイケレドモ、病院建築費、器械其他ノ固定設備費竝ニソノ償却費ヲ措イテ考フレバ、患者ノ食費其他ノ物件費、從業員ニ對スル人件費等ヲ考慮シテ患者1人、1ヶ月90圓ノ經費デ足リルト思フ。(コレハ吾々ガ算出シタルノミナラズ2,3ノ病院ニ就イテ調査シタ結果モ參考シテヰル)

余等ハ余等ノ檢診セル兩市ノ市民中、治療ノ必要アリト認ムルモノ(C群 28名、及事情許セバ治療ヲ行フガ有利ナリト認ムルモノ(B′群) 15名、計43名ヲ治療スル場合ヲ假想シ、月

額90圓ノ治療費ノ自辨ニ堪ユル者ト又堪ヘザル者ニハ何程ノ補助費ヲ必要トスルヤヲ知ラムト欲シ．是等ノ患者ノ各家計ヲ實際ニ調査シタ。其結果ハ次ノ如クデアル。但シ補助費ヲ一々正確ニ定ムルコトハ困難ナルガ故ニ．便宜上．全額補助ト半額補助ノ2群ニ分ケテ置イタ．

第　36　表

	人數	自辨可能ナルモノ	半額補助ヲ要スルモノ	全額補助ヲ要スルモノ
C群	28	12	6	10
B′群	15	6	5	4

現在同樣ノ家計狀態ニアツテモ．戶主或ハ夫レニ準ズル家族ノ扶養責任者ガ入院スル場合ハ然ラザルモノノ入院スル場合ニ比シテ一家ノ負擔ハ重クナリ．又貯蓄或ハ不動產等ノ有無モ之ニ關係シテ來ルノハ當然デアルガ．余等ノ調査セル結果ハ．其等ノ條件ヲモ考慮セルモノデアル事ハ勿論デアル。

第　37　表

	人　數	自辨可能ナルモノ	半額補助ヲ要スルモノ	全額補助ヲ要スルモノ
C群	980.000	420.000	210.000	350.000
B′群	525.000	210.000	175.000	140.000

以上ノ數字ハ前述セル如ク受檢者約2000名ニ就テノ統計デアルガ．之ヲ日本內地總人口70,000,000名ニ就テ類推スレバ第37表ノ如キ數字トナル。

總　括

余等ハ．福岡市及八幡市ノ商店街及勞働者街ノ一定區域ニ於テ．相隣接セル各100戶ヲ選ビ．合計2001人ニ就キ胸部「レ」撮影(必要アル場合ハ透視ヲモ併用)竝ビニ「ツベルクリン」皮內反應ヲ實施シ．又福岡市某小學校．某中學校．及某高等學校ノ兒童及生徒．各學校三學級宛合計1087人ニ就イテモ同樣ノ檢查ヲ行ヒ．次ノ如キ結果ヲ得タ。

1．市民ニ於テハ平均5.1%ノ要監視者．1.5%ノ要治療者ヲ見タ。其ノ大部分ハ無自覺者デアル。

1．市別統計ニ於テハ其等ノ患者ノ發見率ハ大差ヲ認メナイ。

1．街種別ニ見レバ．勞働者街ニハ商店街ニ比シ遙ニ高率ニ肺結核患者ヲ發見スル。

1．市民ノ男女別統計ニ於テハ．患者ノ發見率ハ．男子ニ於テ稍ヽ高イ。

1．市民ノ場合年齡別ニ之ヲ見レバ．略ヽ15歲以下ノ若年者ニ於テハ．患者ノ發見率ハ其ヨリ年長者ノソレニ比シテ低イ。

1．「ツ」反應陽性率ハ市別及ビ街種別ニ大差ヲ認メナイ。

1．市民ノ「ツ」反應陽性率ハ略ヽ36乃至40歲ノ年齡者ニ於テ最高ヲ示シ(84.5%)．其ノ上下ノ年齡ニ至ルニ從ヒ低下スル(以上市民)。

1．小學兒童．中學．高等學校生徒ハ．各平均0.7%．1.3%．6.1%ノ率ニ要監視以上ノ患者ヲ認メル。其等ノ大部分ハ無自覺者デアル。

1．中學5年生ト高等學校1年生トノ間ニハ患者ノ發見率ガ著シク相異スル。2.8%對5.7

%(以上生徒．兒童)。

1．確實ナル「レ」所見ヲ有スル者ニ於テ「ツ」反應陰性ナルモノガ相當ノ率ニ存在スル。C群ニ於テ18.2%．B群11.9%等。

1．10歲以下ノ幼年者ニ於テハ．B乃至C級ノ確實ナル「レ」所見ヲ有シテシカモ「ツ」反應陰性ナルモノガ成人ノソレニ比シテ格段ナル高率ニ存在スル。

1．肺結核傳播ニハ家族間感染ガ重要ナル役割ヲナス兆ヲ認メル。

1．「ツ」反應陽性發現ハ家族的偏倚ヲナス觀アリ。「ツベルクリン」感受性ニ遺傳的．素質的因子ノ存在ヲ認メル。

1．治療ヲ要スル患者ニ就キ．其ノ治療期間ノ推定ヲナシタ。

1．余等ノ檢診セル B′,C 群患者ニ就テ治療費負擔能ノ家計調査ヲナシタ。

以上述ベタル所ニヨリ余等ノ研究目的トセル所ヲ大體ニ於テ果シ得タガ．余等ハ尙今後兩年ニ亙リ同一對象ニ就テ檢査ヲ續行スル事ニシテ居ルカラ．其ニヨツテ今回ノ研究ニ於テ足ラザル所ヲ補ヒ．且ツ新シキ事實ヲ發見セン事ヲ期待シテ居ル。

此ノ研究ハ文中ニモ述ベタ樣ニ福岡縣衞生課．福岡警察署．八幡市役所保健課．八幡警察署．八幡製鐵所．福岡．八幡兩市檢査區域ニ於ケル衞生役員諸氏ノ絕大ナル御支援ヲ辱ウシタ。是等ノ諸賢竝ニ快ク檢査對象トナル事ヲ受諾下サレタ市民諸氏ニ心カラナル敬意ヲ表スルト共ニ．「ツ」反應檢査ニ關シ御援助ヲ賜レル本學部戶田敎授竝ニ細菌學敎室諸氏ニ感謝ノ意ヲ捧ゲ．且ツ研究ニ參加セル我敎室「レ」技術員．看護婦諸君ノ勞ヲ謝スル次第デアル。

尙．本研究ハ昭和14年文部省科學研究費ノ下附ヲ受ケテ行ヒタルコトヲ記シ感謝ノ意ヲ表スル。

附．吾國結核豫防撲滅國策第一期十年計畫私案

余等ハ余等ノ研究ニヨツテ知リ得タル事實ニ基キ吾國結核豫防國策ヲ如何ニ實施スベキカニ就イテ私案ヲ樹テテミタ。

患者ノ發見ニハ「レ」寫眞檢査ヲ用フルコトニスル。之ニ直接法．間接法ノ二樣アルガ現在余等ノ有スル技術．讀影術ヲ以テシテ2.4cm×3.6cm「フヰルム」ヲ使用スル間接撮影法ハ．ソノ罹患者發見能ニ於テ直接撮影法ノソレニ對シ約9割ニ當ル。(日本放射線醫學會雜誌第7卷第5號中島論文參照)6.0cm×6.0cm「フヰルム」ヲ用フレバソノ發見能力ハ直接撮影法ト2.4cm×3.6cm「フヰルム」法トノ中間ニアルモノト考ヘラレル　物價ノ變動極メテ大ナル今日ニ於テ寫眞ニ要スル費用ヲ算出スルコトハ稍ミ困難デアルガ．大體ニ於テ2.4cm×3.6cm「フヰルム」ヲ用フレバ人件費其ノ他ヲ合シテ1枚25錢．6.0cm×6.0cm「フイルム」ヲ用フルトスレバ1枚30錢．直接法ニヨレバ1枚1圓50錢ト見積レバ大差ナカラムト思ハレル。(前揭論文參照)

今將ニ出征ノ途ニ上ラムトスル兵士ニ就イテ．ソノ任務ニ堪ヘルモノカ否カヲ決定スル爲ニ

行フ集團檢診ニ於テ 2.4cm×3.6cm「フヰルム」間接撮影法ニヨリ 10 人中 1 人ノ割ニ有所見者ヲ見逃シタトスレバ．コレガ戰地ニ於テ發病スルコトニヨリテ費サル、費用ハ前揭ノ論文ニモ述ベタル如ク到底直接法ヲ用ヒタガ爲ニ消費セラル、費用ノ比デハナイノデアル。從ツテ斯ル場合ハ勿論．出來ル丈診斷能ノ大ナル方法ニ依ルベキデアルコトハ經濟的見地ヨリスルハ勿論．人道上ノ見地ヨリスルモ當然デアル。

然シ一般住民ノ場合ハ大ニ趣ヲ異ニシテヰル．一般民衆ガ日常生活ヲ營ミツヽアル間ハ．戰場ニ於ケル兵士ノ任務ノ如キ困苦ニ曝サレルコトガ非常ニ少イ．從ツテ間接撮影檢診ニヨリ．10 人中 1 人ノ割ニ有所見者ヲ見逃シタリトスルモ．見逃サレタル者ガ悉ク惡化スルトハ限ラナイシ又惡化スルトシテモ一時ニ最早治癒ノ見込ナキ程急激惡化ヲ示スモノハ稀デアラウト考ヘラレル。若シ 1 年 1 回檢診ヲ繰返スモノトスレバ恐ラク間接撮影ノコノ缺陷ハ殆ンド充分ニ補ハレ得ルモノトミテヨイト思フ。故ニ若シ吾國七千萬民悉クニ就イテ結核豫防ノ目的ヨリ檢査ヲ行フトスレバ間接撮影特ニ 6.0cm×6.0cm「フイルム」ヲ以テスル間接撮影法ヲ應用スルガ最モ合理的ト思フ（6.0cm×6.0cm「フイルム」法ガ 2.4cm×3.6cm「フイルム」法ニ勝ツテヰルト思ハル、理由ハ餘リニ專門的ニナルガ故ニ玆ニハ略ス）。

1 枚 30 錢ヲ要スル間接撮影法ヲ以テ吾國七千萬民衆ヲ悉ク檢査スレバソノ費用 2100 萬圓ヲ要スルコトニナルガ．コレハ國費ヲ以テ悉ク支辨セズトモ吾國ノ現狀ヨリ見テ各個人負擔トスルコトハ敢テ困難ナコトデハナイト思惟セラレル。況シテ現在既設セラレアル健康相談所．官公立病院等ヲ動員スレバ各個人ヨリ徵收ス可キ費用ハ「フイルム」1 枚代約 10 錢ニテ事足リルニ於テオヤデアル。勿論幾何カノ例外者ハアルデアラウガ．斯ル者ニ對シテハ國費ヲ以テ支辨スルモ．ソノ額タルヤ問題トスベキ程デハナイノデアル。又七千萬民悉クヲ檢査スルコトガ．實際上ニ於テ實施困難ナラバ 15 歲以下ノ者ハ當分放置スル方ガ經濟的ニ見テ有利ナルベシト考ヘラレル（コノ場合ノコトハ以下ニ於テハ論ゼズ）。

間接撮影法ニテ發見シタル有所見者ハ更ニ直接撮影法ニヨリ精診シ豫後．治療ノ方針等ヲ決定シナケレバナラナイ。余等ノ檢査成績ニヨレバ有所見者（B，C 級）ハ 6.6% ノ割ニ存在スル。從テ七千萬民衆中ニハ大約 462 萬人ノ精診ヲ必要トスル者ガアル。之レニ要スル費用ハ大約 693 萬圓デアルガ．コレモ大部分ハ各個人負擔トシ．100 萬圓程度ノ國庫補助ヲ見積レバ優ニ實施可能ト思ハレル。

若シ以上ノ如キ檢査ノ卽時實施ガ困難ナル事情ニアレバ．當路者ハ宜シク徵兵檢査時ニ於テ．更ニ中等學校以上ノ生徒．學生ノ體格檢査時ニ於テ．更ニ各官廳．會社ノ體格檢査時ニ於テ前同樣ノ「レ」集團檢査ヲ行ヒ．有所見者ヲ摘發シ更ニ進ンデ摘發シタル有所見者ノ家族ニ就イテ檢査ヲ行フ可キデアル。斯ル檢査ハ國家ハ殆ンド一文ノ經費モ拂フコトナク．各個人ノ自辨ヲ以テ實施シ得ル所デアラウ。但シ徵兵檢査ノ場合ハ特別デアル。

以上ノ如クニシテ實施スレバ大部分ノ患者ノ摘發發見ハ易々タルコトデ．當路者ニ之レガ必

要ヲ痛感スルノ明ト斷ノ一字ガアレバ事足ルト思フ。

若シ吾國ノ經濟狀態ニシテ．コレ以上多額ノ經費ヲ結核豫防ニ費スコトヲ許サレザルモノナラバ．以上ノ如クニシテ發見シタル患者ニ對シテ傳染豫防ニ關スル知識ヲ充分ニ與ヘ．又B級有所見者ハ醫師ノ監督ノ下ニ置イテ．變化ノ程度ニ應ジテ輕減シタル職ニ就カシメ．C級患者中自費治療ヲナシ得ル者ハ適當ニ之ヲ治療セシメ．貧困者ニ對シテハ幾分ノ補助費ヲ與フル程度ニテ打切リタリトスルモ恐ラク結核患者ノ發生數ハ逐年漸減ノ一途ヲ辿ルニ至ルモノデアラウコトハ疑フ餘地モナイコトデアル。

飜ツテ刻下ノ國際狀勢ヨリ案ズレバ吾國結核豫防撲滅ノ事業ハ歲費百幾十億ノ一部ヲ割イテ今少シク積極的對策ヲ講ズル必要性アルモノト思ハレル。由テ余等ハ更ニ國費ノ一部ヲ割イテ此方面ニ費ス場合ノコトヲ考案シテミタイト思フ。結核豫防撲滅上緊急ナコトハB′，C級患者ヲ取敢ヘズ處置スルコトデアルガ(以下7千萬民ヲ悉ク檢査シタ場合ニ就イテノミ立論スル)。現存スルコレ等ノ患者ヲ悉ク入院セシメテ治療スルト假定スレバ．治療費ノミニテ1ヶ年16億2千5百40萬圓ノ巨額トナリ．其ノ中國庫負擔額ハ7億3千7百10萬圓ヲ要シ．到底早急ニ實施スルコト困難ナコトハ余等ニモ明デアル。故ニ之レヲ如何ニスレバ吾國經濟狀態ニ卽應セシメ得ルカト云フコトガ問題デアル。

敍上事情ニ於テ余等ハ先ヅB級卽チ要監視者ハ堪能ナル醫師ノ監督下ニ置キ日常ノ職業ニ從事セシメ或ハ輕減シタル職ニ就カシメ事情ノ許ス範圍ニ於テ注意シタル生活ヲ營マシメ病勢惡化ノ徵アル場合直チニC級患者ニ編入スルコトニシ．B′級患者モ大體ニ於テ同樣ニ取扱ヒ．家政裕カニシテ事情許ス者ハ自費ヲ以テ治療セシムル樣ニスレバヨイト思フ。

C級患者中治療費ノ負擔ニ堪ヘルモノハ官公私立病院ノ醫師ノ治療ニ委スルコト現在ノマヽニ之レヲ措イテ差支ナイ。唯傳染豫防上ノ諸注意事項ヲ嚴守セシムルコトニ努力スレバ足ル。C級患者中治療費ノ全額補助乃至ハ半額補助ヲ要スルモノハ之ヲ悉ク．コノ目的ニ新設セラレタル國立療養所ニテ治療スルモノトスル。併シ全額補助及ビ半額補助ヲ要スルC級患者數ハ全國ニハ約56萬人アルガ之ヲ一時ニ收容スルトスレバ56萬ノ病床ヲ建設シナケレバナラナイ。一床ノ建設費千圓ト見積ツテモ5億6千萬圓ヲ要スルコトトナリ．到底實現困難ナ相談デアル。而シテ之等ノ患者ハ余等ニ治療ヲ委託セラレタトスレバ平均約12.8ヶ月(以下計算ノ都合上12ヶ月ト見積ル)ニシテ大部分ハ全快セシメ得テ極少數ハ死亡スルモノト考ヘラレルノデ56萬ノ病床ノ大部分ハ1年ニシテ不要トナリ不經濟此上モナイコトニナル。

斯ル關係ヨリ余等ハ結核撲滅策第一期10年計畫ヲ樹テテミタ。

初年度ニ於テ5萬6千ノ病床ヲ建設シ5萬6千ノC級患者ヲ治療スルモノトスル．斯クスレバ前述ノ如ク約1年ニシテ之等5萬6千ノ患者ノ大部分ハ全治セシムルコトヲ得．只一小部分ノ者ハ死亡シテ結末ヲツケ得ルモノト見做シテ大差ナイト考ヘラレル。斯クテ10年後ニハ要補助費C級患者56萬人ガ如何ナル數ニ減少スルカヲ考察シテ見ヤウ。

今吾國ノC級患者數ガ大シテ增加モシナケレバ，大シテ減少モシナイ狀態ニアルト假定シテ大差ハナイト考ヘラレル。

現在吾國C級患者ガ年々何程位死亡シツヽアルカ，正確ナルコトハ知ルコトガ出來ナイガ Münchbach 氏著 "Das Schicksal der Lungentuberkulösen Erwachsenen" 中ニ記載シアル所ヲ見ルニ開放性肺結核患者ノ1年中ノ死亡率ハ報告者ニヨリテ非常ナ差ガアル。熊谷岱藏氏ニヨルト喀痰中ニ結核菌ガ染色證明セラレル樣ナ人ハ10年間位ノ間ニ90%死亡スル(日本臨牀結核第1卷第1號23頁)ト云フコトデアル。コレハ年平均約2割ノ死亡率トナル。余等ノ判定ニヨルC級患者ハ檢査後約半年ノ今日既ニソノ1割ガ死亡シテヰル點ヨリ考ヘレバ1ケ年內ニハ約2割ハ死亡スルト考ヘテ大差ナイラシク思ハレルノデ假リニ2割ノ死亡率ガアルモノトスル。今年々56萬ノC級患者ノ2割卽チ11萬2千ノ死亡ガアツテ，C級患者數ガ略ヽ一定シテヰルトスレバ年々約11萬2千ノ新生C級患者ガアルベキ筈デアル。

今前述セル集團檢診ニヨリ發見シタル患者ヨリノ傳染ノ防止B級患者ノ保護等ニヨリ，コノ新生患者發生數ヲ半減セシメ得タト假定スレバ年々5萬6千ノ新生患者ガアルコトニナル。斯ル假定ノモトニ現存スル要補助費C級患者ガ如何ナル數ニナルカヲ計算スレバ56萬ナル數ガ，國策實施後1ケ年ノ終リニ

$$560000-56000-(560000-56000)\times 0.2+56000=(560000-56000)(1-0.2)+56000=459200$$

同ジク10年後ノ終リニ於テハ

$$(560000-56000)(1-0.2)^{10}+56000=110116$$

卽チ10年後ニハ11萬1百16名トナリ，始メニ存在シタ56萬名ノ1割9分7厘ニ相當スルマデニ減少スルコトニナル。

右計算ハ新生C級患者ノ發生數ヲ初年度ヨリ10年度マデ同樣ナリトノ假定ノ下ニ行ツノデアルガ貧困家庭ニ於ケルC級患者ガ前述ノ方策實施ニヨリ逐年減少スルニ從ヒ傳染源ノ減少ニ伴ヒ新發生數モ遞減スルモノト考フルガ至當ナルヲ以テ實際ニ於テハコレ以上減少スルモノト考ヘラレルノデアル。

以上ノ方策ヲ實施スルニ必要ナル經費ヲ計算スレバ5萬6千ノ病床ヲ建設スルニ一床當千圓トシテ5千6百萬圓トナル。

治療費一人宛月額90圓トシテ年額1080圓トナル。全額補助ヲ要スルモノ35萬人，半額補助ヲ要スルモノ21萬人アルガ，之ヲ平均スレバ1人宛年8百77圓50錢ノ補助ヲ要スル事ニナル。從ツテ年々5萬6千人ヲ治療スルニハ年額4千9百14萬圓ノ國庫補助ガ必要デアル。

結局初年度ニ於テ1億5百14萬圓ヲ支出シ其ノ後ハ年々4千9百14萬圓宛支出スレバヨイ事ニナル。

コノ外ニ一家ノ扶養ニ當ツテヰル者ガ病氣トナリタル場合ニハ家族扶助料ノ支給ガ必要トナルガ，C級患者ハコノ方策ヲ實施スルニシロ，シナイニシロ，コノマヽニ放置スレバ今後遠カ

ラズシテ家族扶養能ハ無クナルモノト考ヘラレルガ故ニ．コノ方策ヲ實施スル爲メニ特ニ家族扶養料ノ支出ノ必要性ガ生レル譯デナイ。ノミナラズ余等ノ治療補助料ハ相當多額ニ見積ツテヰル故．コノ上ニ家族扶助料支出ノ絕對必要アル場合ハ極メテ稀デ．ソレヲ支出スルトシテモ百萬圓級ノ金額ヲ以テ足リルモノト考ヘラレルノデ玆ニハ特ニ擧ゲナカツタ。

今ヤ．120億圓貯蓄ヲ目指シテ邁進シツヽアル吾國勢ヲ以テシテ．此程度ノ支出ハ常識ヲ以テ考フレバ絕對不可能事デハナイラシク思ハレル。況シテコレニ依ツテ贏チ得ベキ勞力ヲ金ニ換算スレバ莫大ナル利アルノミナラズ況ヤ人世ノ幸福量リ知ルベカラザルモノアルニ於テオヤデアル。

以上余等ノ推論ノ基礎事項ニ於テ正確ヲ缺ク點ガ多々アルトハ余等ト雖モ充分ニ知ツテヰル．併シ余等ハ余等ノ抱懷スル結核豫防撲滅國策第一期10年計畫ヲ實施スルニ當ツテ必要トスル極メテ大略ノ入費ト之ヲ實施シテ10年後ニ於ケル效果ノ程度ノ大略ヲ數的ニ擧ゲテ當路者ノ參考ニ供シ得レバ．本研究ノ目的ハ達セラレルモノト考ヘテヰル。

最後ニ强調シタイコトハ．中學5年生ト高等學校1年生トハソノ年齡ニ於テ殆ンド相等シキニモ拘ハラズ．肺結核罹病者ハ高等學校1年生ニ於テ飛躍的ニ增加シテヰルコトデアル．コレガ由テ來ル所ハ勿論多々アルベキデアラウガ入學試驗時ノ過度ノ勉强ハ．ソノ主要原因ヲナスモノト考ヘラレル。結核豫防ノ見地ヨリスルモ吾國學制々度ノ改革ハ一日モ忽ニスベキデナイモノデアラウ。